

一点だけでも「こも編み石」に認定できるか？

石 守 晃

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. はじめに | 4. 多比良追部野遺跡のこも編み石 |
| 2. 研究小史 | 5. 利根川の川原石 |
| 3. こも編み石の部位呼称 | 6. おわりに |

— 要 旨 —

「編み物石」「編み物用石錘」「薦編石」の呼称を持つ「こも編み石」は、ムシロ等の編み物の錘として使用されたと認識されている礫である。こも編み石は竪穴住居(竪穴建物)から複数個まとまって出土することで知られるが、本稿は1点でも当該礫がこも編み石と認識できることを示すことを目的として起こした。

先づ、こも編み石の様相を把握するため、高崎市吉井町の多比良追部野遺跡出土した1,072点のこも編み石のうち、当該竪穴住居に伴うものとして判断したこも編み石が、1軒当たり8個以上出土した34軒の竪穴住居出土の478点のこも編み石を検討した。その結果、横位を一周する摩耗痕(本稿では「摩耗周」と仮称する)と、摩耗や敲打により人工的に作られた測縁の挟れがこも編み石認定の要素であることを認識した。

一方、自然礫に摩耗周や人為的に作られたもののような挟れが確認できるか否かを確認するため、利根川の川原石86点を観察した。その結果、一見摩耗周に見えなくもない横位に発達した層理を有するものも多く見られたが、自然の川原石には摩耗周や人為的な挟れ様のものは確認されなかった。

以上の所見から、摩耗周や人為的挟れの有無の確認により、1点の礫でもこも編み石として識別できることを確認した。

キーワード

対象時代 古墳時代
対象地域 —
研究対象 こも編み石

1 はじめに

竪穴住居(現在「竪穴建物」と称することになっているが、引用文献等との整合性を求めて、本稿では「竪穴住居」を用いる)から、時々まとまって出土する、主に楕円形或いは隅丸長方形の平面形を呈する川原石がある。今日、編み物に用いる錘として認識されるこの礫は「編み物石」「編み物用石錘」「薦編石」「こも編み石」等多くの呼称を有するが、本稿では勤務する(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で主に使われている「こも編み石」を以てその名称とし、以下記載することとする。

筆者がこも編み石に真剣に相対したのは、上信越道(関越自動車道新潟線)の建設に伴い発掘調査を実施した、群馬県多野郡吉井町の多比良追部野遺跡(たいらおっぺのいせき)の整理作業に携わった平成6年2月から平成8年3月に掛けてであった。その整理作業に於いて、こも編み石を観察していたところ、職場の先輩である大木紳一郎氏から、紐掛けの使用痕であるこも編み石を横位に廻る帯状の摩耗痕のあることを教えられ、その視点を加えて観察を進めていった。観察したこも編み石は、竪穴住居出土のものが1,023点、その他の遺構や遺構外出土ものが49点の、併せて1,072点であった。

さて後述の吉井雅勇氏は、群馬県では「規格性のある楕円礫＝編物用石錘と認識」し、個々の実測図まで掲載するなど「編物用石錘に対する認識の高さがうかがえる」とまで評価下さった(吉井 2007)が、私の勤務先も整理システムの変更以降、竪穴住居からまとまって出土するもののみを対象とするようになり、少数個体のものは取り上げられにくくなっている。また発掘現場では、こも編み石と自然礫との峻別が付け辛いという現実もある。

一方で、自然の川原石の中には、その中位を横断する層理があって、礫を一周する帯状の摩耗痕と同じように見える事例を認知していたため、筆者の観察した摩耗痕等が自然石にも見られるのではないかという不安を抱いていた。そこでこも編み石に長軸方向に層理の発達が見られ、帯状摩耗痕と層理との峻別の付き安い片岩を多く使用している多比良追部野遺跡出土のこも編み石と、利根川原に見られたこも編み石様の川原石の観察を通して、自然石とこも編み石の判別できることを確認し、例えば1点でも当該礫がこも編み石と認識できることを示すことを目的として本稿起草するものである。

2 研究小史

こもあみ石の出土例について初めて報告したのは大場利夫、石川徹による手稲遺跡の発掘調査報告書である(大場・石川 1956)⁽¹⁾。児玉作左衛門と大場利夫は、天塩郡豊富町豊富遺跡の報文、4号竪穴の東壁沿いの窯の西側に43個出土する長さ5cm、厚さ3cmほどの扁平な河原石について、出土箇所には他の遺物も多く、「近代ア

イヌ人が織物の錘に小石を使用していることゝ併せて」、ここが「敷物などの植物繊維を織る織物機を置いたところであり、小石は錘石であるかも知れない」とその用途に言及している(児玉・大場1959)。

しかしその後、大川清は長野県伊那市の福島遺跡の報告書(資料編)に於いて、C9号住居跡のP2柱穴の近くにまとまって出土した「こもあみ石」について「Toilet stone」として報告しており(大川 1968-p.50,p.56)、Toilet stoneは「大型のものと小型のものがそれぞれかためられているとき」出土したもので、その名の通り用便の具としていたと解釈した(大川 1968)。しかし以降の研究者は大川説このToilet stone説を取り上げるものの、肯定する所見は確認できない。

さて、比留間博は船田遺跡の発掘調査報告書に於いて、E42住居址に散らばって出土した10個のこも編み石を、すべて自然面を持つ河原石で、長さ・周囲10～15cmを図るものとして「編物石」として報告している。その呼称について比留間は「筵編みの錘りに類似するからだが、用途の確証はない」と述べている。今日定説化している「編み物の錘」説を断定してはいないが、今日に続く当該説の直接の元となる指摘である。尚、E42住居址の「編物石」は重量100g前後2個、200g前後4個、300g前後2個であることから、「ほぼ等しい大きさの石、2個一組で使用していたことがうかがわれる」としている(比留間 1969)。

一方、尾崎喜左雄は、群馬県高崎市(旧多野郡吉井町)入野遺跡の11・14・17号住居の南壁の東或いは西隅に長さ15cm程の川原石(こも編み石)が石段状に積まれ、周囲から大盤、小型手捏造土器が出土することから、こも編み石を祭祀的な遺構の一部として捉えている(尾崎 1970)。しかし後述の黒沢はるみ(黒沢 1988)らはこの祭祀説を否定している。

柿沼幹夫は下田遺跡43号住居跡からまとまって出土した9個を含む14個の川原石に着目し、資料収集によって南関東では弥生時代の出土例は知らないが、古墳時代から平安時代の出土例のあることを記し、四角柱に近い形状で10～20cm前後のものが多く、竪穴住居の隅や壁際の床面直情に出土し、偶数個の出土が多く、時期による相違は見られないとし、「編物石」として認識するのが最も妥当であろうと結論付けている(柿沼 1979)。確証はないとしていた比留間博の説(1969)が、10年を経てより明確に指摘されるようになったことを示している。

渡辺誠は“もじり編み”用の錘具に関する検討を、民俗事例と考古資料から行い、以後の研究の画期となる論考を上梓した(渡辺 1981)。渡辺は、北海道と京都府、東京都、及び福島・埼玉・長野・静岡・岐阜・滋賀・三重・福井県の1都、1府、1道、8県の24地区27事例の民

俗例と、東京都、北海道、栃木・群馬・埼玉・神奈川・岐阜・高知県の1都、1道、6県の20遺跡55軒の竪穴住居と氷室1カ所の事例を分析した。民俗例では西関東から中部地方にかけての事例集中の傾向があること、製作される製品は縦糸幅1cm程の編み布等の第1群、2～数cm幅のカゴ等の第2群、10～20cm幅のムシロ等の第3群、15～30cm幅の雪囲い等の第4群の4群に分けられること。横に渡す繊維は第4群に向かうほど太くて硬い材質を使用し、縦糸を束ねる錘には木錘と石錘があり、石錘の重量は第1群は20～80g、第2群は80～180g、第3群は160～300g、第4群は360～880gであった。また木錘と石錘との使い分けは素材を見極めて行っていることを指摘している。また石錘については、未加工の川原石を用いたA類、紐掛けを施したB類、紐(ちのわ)を掛ける部分に溝を一周させたC群、石器を転用したD類にわけられ、A類は扁平または丸い川原石のAa類、長めの川原石のAb類、B類は紐かけ部分に粗い打ち欠きのあるBa類、きれいな切れ目のあるBb類に細分している。渡辺の取り上げた考古資料(石錘(こも編み石))は全て民俗資料のAa類とAb類であった。その重量は765gのものもあったが、多くは100～450gの範疇に収まっているという。また対を成す礫が列を成して主度している例が10例あり、カマドの反対側から出土する例が64%と多いことが指摘され、この領域での作業を想定されている。また渡辺は、8個出土の例は米俵、炭俵作製の可能性を指摘し、礫石錘も従来想定されているような漁錘ではなくもじり編用錘具と見做している。

このようにこも編み石は編物に使用される遺物だという認識がなされるようになっていたが、群馬県沼田市石墨遺跡の発掘調査と整理作業を担った水田稔は、住居址出土の弥生時代から平安時代、特に古墳時代後期の竪穴住居から出土する楕円の川原石の観察から、当時これが編物に使用された礫と認識されつつあることを知りつつも、石墨遺跡出土のものは「多くが敲石の範疇に入ると」と判断し(水田 1985)、単純にこも編み石として扱うことの問題点を示唆した。

その後、上野国分僧寺・尼寺中間地域の38軒の竪穴住居(竪穴建物)から出土した96個の「川原石」である「礫」(こも編み石)を分析した黒沢はるみは、長さ11～16cm、幅4～8cm、重さ400～500gが多く、石材は粗粒安山岩を用いたものが多いと報告している。また氏は自然礫と思われたもののうち1/4以上が磨石や敲石等の石器であり、重量も600g以上が43.2%を占めていることからこも編み石に複数の用途のあることを示して、水田の指摘(1985)⁽²⁾に答えている。また柿沼(1979)が指摘した等しい重量、或は偶数個の組み合わせに必ずしも適合しないことを指摘している。そして相伴遺物等に入野遺跡の出土例に近いものはあるものの、尾崎喜左

雄の指摘したような祭祀遺物とすること(尾崎1970)は困難との所見を示している(黒沢 1988)。

新潟県荒川町道端遺跡の古墳時代中後期の1号土坑から出土した12個の楕円礫を分析した吉井雅勇は、上述の渡辺誠の研究成果(渡辺 1981)と周辺地域、特にこも編み石本体のデータの揃っている群馬県の事例との比較において検証している。この論考の中で氏は道端遺跡出土のこも編み石から長さ14.4から18.7cm、平均16.3cm、重さ525～1,230g、平均888.8gであることを示し、比較的資料の提示数の多い群馬県との比較や、上述の渡辺誠(渡辺 1981)の成果を勘案し、道端遺跡の楕円礫は「編物用石錘」と考えられ、最も重い部類であるため、「タテ糸の間隔は10～30cmと粗く、雪囲い簀、エリ簀、スダレなどの大型品」が想定される」としている。また群馬県の例が多く竪穴住居から出土していることから、「編み物作業の多くは屋内であったであろう」という見解を示している(吉井 2007)。

以上の先学の研究により、「こも編み石」が編物用の石錘であるという認識は定説化し、一部のこも編み石には敲石等の機能も併せ持っている、即ち石器、石製品からの転用品があることも認識されるようになってきている。

3 部位呼称

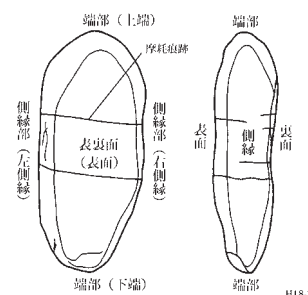
こも編み石の多くは、一見自然の川原石に見える資料である。従って部位の呼称等はそもそも明確ではないのであるが、こも編み石を説明するに当たり、本稿では、仮称で

はあるが部位等の呼称を設定することとする。

こも編み石の多くは楕円形等の円礫であり、X・Y・Zの軸方向で長さが異なる。平坦面に据えた場合、最も長い軸方向と他の2軸のうち長い方の軸方向が上下左右の垂直方向(X・Y軸方向)となり、最も短い軸線方向が前後方向(垂直)方向(Z軸方向)にある。最も長い軸線方向を「縦位」、次に長い軸線方向を「横位」、最も短い軸線方向を「奥行」と仮称したい。

次に一呼称として、従位方向の端点を「頂部」とし、任意に据えた上位の端部を「上端」、下位の端部を「下端」とする。横位方向の端部を「側縁」とし、やはり任意に据えた左側を「左側縁」、右側を「右側縁」とする。そして、こも編み石を平坦面に据えたとき手前または背面に見える面は「表裏面」とし、任意に据えた手前側の面を「表面」、裏側の面を「裏面」と呼称することとする。

測定に於いては上端と下端間の最長距離を「長さ」、



第1図 こも編み石の部位呼称

左右両側縁間の最長距離を「幅」、表裏面間の最長距離を「厚み」とする。また任意に据えたこも編み石の従位方向の上方を「上位」、中程を「中位」、下方を「下位」と呼称することとする。

4 多比良追部野遺跡のこも編み石

① 多比良追部野遺跡

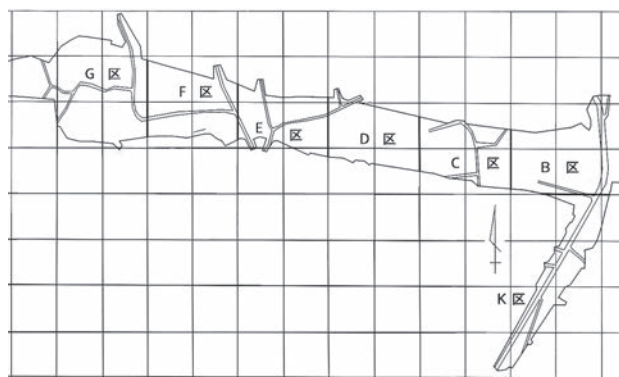
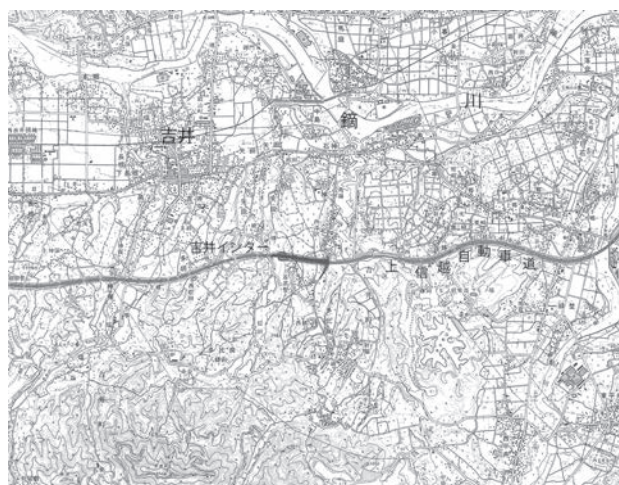
本稿で取り上げるこも編み石は、多比良追部野遺跡(たいらおっぺのいせき)出土の資料である。これは整理作業に当たって一点一点観察していたこと、及び同遺跡出土のこも編み石が多く絹雲母石墨片が等の片岩によるもので、層理が長軸に沿って形成されていることから、こも編み石を特徴づける要素として考えている横位を一周する摩耗痕が確認しやすいためである。

多比良追部野遺跡は上信越自動車道の建設に伴って平成元～2年度に発掘調査された遺跡で、群馬県西南部の高崎市吉井町多比良、利根川の支流である鎗川の右岸の段丘上、東の土合川、西の矢田川という共に北流する中中小河川に開析された谷に挟まれた尾根状地形の上に立地している。多比良追部野遺跡は旧石器時代から近世に至る複合遺跡であるが、古墳時代以降の竪穴住居 191 軒についてみると、古墳時代前・中期が 2 軒、古墳時代後期以降の 189 軒のうち古墳時代後期が 129 軒、奈良時代 20 軒、平安時代 24 軒と、特に古墳時代後期の遺構量が多く、古墳時代後期の竪穴住居のうち 89.1% が 6 世紀後半から 7 世紀前半にかけての所産である。

② 多比良追部野遺跡の竪穴住居とこも編み石

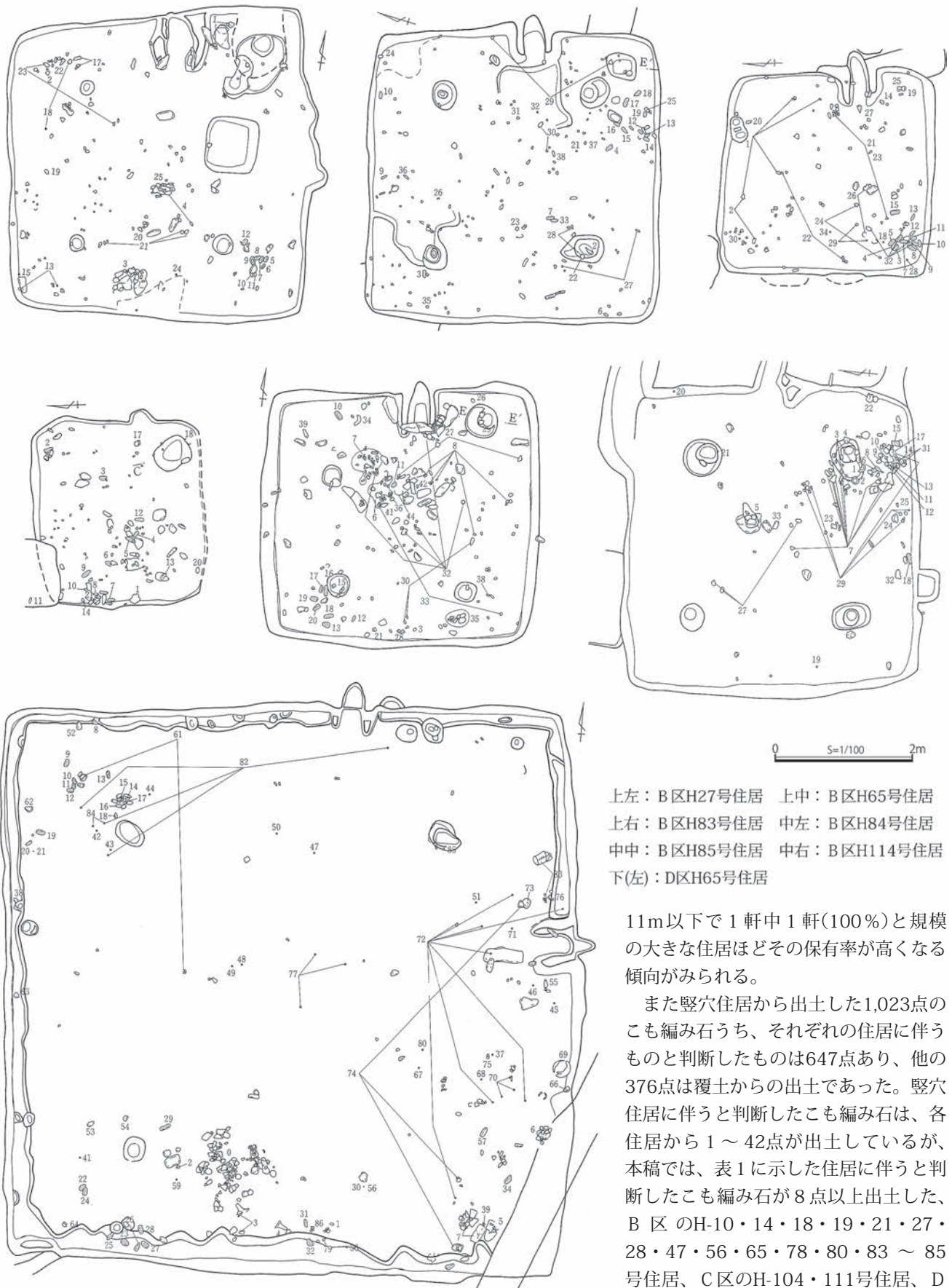
多比良追部野遺跡の発掘調査で出土したこも編み石は 1,072 点あり、このうち竪穴住居から出土したこも編み石は 1,023 点であった。竪穴住居 193 軒のうち、こも編み石が出土した住居は 138 軒である。こも編み石は古墳時代中期以前の住居からの出土はなく、古墳時代後期の住居では 130 軒中 83 軒(63.8%)からの出土があった。一方、奈良時代の住居 20 軒のうち 17 軒からの出土があり、住居に伴うこも編み石が出土したのは 12 軒で、平安時代の住居 24 軒のうち 6 軒から出土し、住居に伴うと判断したこも編み石が出土したのは 1 軒であった。

多比良追部野遺跡の竪穴住居は古墳時代後半期のものを中心としているが、同時期の竪穴住居のプランは概ね方形を呈している。このうち規模が測定できた 118 軒についてみると、一辺の長さが 3 m 以下では 9 軒中 9 軒(100%)、4 m 以下で 21 軒中 9 軒(42.86%)、5 m 以下で 35 軒中 21 軒(60%)、6 m 以下で 33 軒中 27 軒(81.82%)、7 m 以下が 13 軒中 11 軒(84.62%)、8 m 以下で 2 軒中 1 軒(50%)、9 m 以下と 10 m 以下では共に 2 軒中 2 軒(100%)、11 m 以下で 1 軒中 1 軒(100%)の竪穴住居からこも編み石が出土しているが、住居の規模



第2図 多比良追部野遺跡位置図と調査区配置図
(中：国土地理院「富岡」「高崎」「上野吉井」「藤岡」使用
1/10万 下：1/6000)

とこも編み石出土との関係性は認められない。また 8 個以上のこも編み石が出土した住居では、一辺の長さが 3 m 以下では 9 軒中 2 軒(22.2%)、4 m 以下で 21 軒中 5 軒(23.81%)、5 m 以下で 35 軒中 5 軒(14.29%)、6 m 以下で 33 軒中 9 軒(27.27%)、7 m 以下が 13 軒中 5 軒(38.46%)、8・9・10 m 以下は共に 2 軒中 1 軒(50%)、



第3図 竪穴住居と出土遺物(住居に伴うこも編み石は灰色塗)

上左: B区H27号住居 上中: B区H65号住居
上右: B区H83号住居 中左: B区H84号住居
中中: B区H85号住居 中右: B区H114号住居
下(左): D区H65号住居

11m以下で1軒中1軒(100%)と規模の大きな住居ほどその保有率が高くなる傾向がみられる。

また竪穴住居から出土した1,023点のこも編み石うち、それぞれの住居に伴うものと判断したものは647点あり、他の376点は覆土からの出土であった。竪穴住居に伴うと判断したこも編み石は、各住居から1～42点が出土しているが、本稿では、表1に示した住居に伴うと判断したこも編み石が8点以上出土した、B区のH-10・14・18・19・21・27・28・47・56・65・78・80・83～85号住居、C区のH-104・111号住居、D区のH-113・119～122・139・140・



左上：E区123号住居 右上：F区190号住居
 左下：K区49号住居

第4図 竪穴住居と出土遺物(住居に伴うこも編み石は灰色塗)

152・145号住居、E区のH-123・125・128・190号住居、K区のH-49・68・69号住居の34軒の竪穴住居出土で、当該の竪穴住居に伴うと判断した438点のこも編み石を対象に検討を行くこととする。

34軒の竪穴住居出土のこも編み石の数量は8～42点で、その平均は13.8点であった。尚、その出土点数が偶数の竪穴住居は16軒、奇数の竪穴住居は18軒であり、黒沢はるみ(黒澤 1988)が指摘したように、必ずしも偶数個が適合されないものである。

またその出土状態の分布状況をみると、34軒中33軒の竪穴住居で集中的出土状態が見られた。しかし、これらは上述の入野遺跡例のような整然としたものではなく、縦糸に当たる縄や紐が付けられたまま置かれたことを示唆するものであった。また集中的に出土する位置は、住居の南東部が4軒、南中央部が2軒、南西部が6軒、西中央部が1軒、北西部が7軒、北東部が2軒、中央部が1軒あった。このうち2軒は2か所の集中域を有し、D区H140号住居が南西部と北西部、K区69号住居は南東部と南西部に集中域を有している。また南中央部の2軒は共に南壁際、南西部6軒のうち2軒が南壁際、1軒が西壁際に在り、西中央部の1軒は西壁際、北西部7軒のうち3軒が西壁、2軒が北壁際、北東部の2軒中1軒が北壁際に集中的な出土が確認された。こも編み石が8個以上出土する竪穴住居では、約2/3で集中的なこも編み石の出土状態が見られたが、竈の設けられた側は6軒で、他の16軒は竈から離れた位置から出土しており、一方、壁際から出土は集中的な出土を見せる竪穴住居の約半数を数えた。

② こも編み石の規格

34軒の竪穴住居から出土し、住居に伴うと判断された478点のこも編み石の概要は表3⁽³⁾に示し、その一部の実測図を第5～7図に示した。

これらのこも編み石の長さは測定できた439点についてみると、8.3cmから25.4cmと分散が大きいものであったが、平均14.9cmを測り、表塾偏差は2.0であった。また重量を測定できた424点についても、100gから1,320gと分散が大きいものであったが、平均620.7gを測り、標準偏差は288.2であった。しかしこの長さや重量の分散傾向から思料するに、こも編み石は重量の均質性より大きさ(長さ)の均質性を求めて採集されていたのではないかと窺われるのである。

また、竪穴住居ごとのこも編み石の長さの平均は、B区H21号住居の11.6cmからE区H125号住居の17.4cmまであって多様である。しかしD区H140号住居(平均13.4cm)からE区H125号住居(平均17.4cm)までの32軒の平均値は、概ね直線的な分布状態を示す。尚、この長さの平均値の34軒全体での平均は14.8cmで、その標

表 1 8 個以上のこも編み石が出土した竪穴住居一覧

No.	区	住居	住居 伴う	住居に伴 わない	小計	規模		竈 向き	集中分布域	時期
						長軸	短軸			
1	B	H-10号住居	12	0	12	[306]	[274]	東	北西部北壁際	7c.後半か
2	B	H-14号住居	8	4	12	553	529	東	—	7c.前半か
3	B	H-18号住居	8	2	10	624	(406)	東	北西	7c.中葉
4	B	H-19号住居	17	4	21	(442)	401)	(東)	南東部南壁際	8c.後半
5	B	H-21号住居	10	2	12	518	518	東	北西部西壁際	6c.後半
6	B	H-27号住居	8	1	9	573	540	東	南東	6c.後葉
7	B	H-28号住居	25	0	25	690	(648)	東	北西・南東南 壁際	6c.末-7c.頭
8	B	H-47号住居	12	2	14	518	508	東		6c.末-7c.頭
9	B	H-56号住居	12	14	26	573	551	(北東)	南部中央南壁 際他	6c.末-7c.頭
10	B	H-65号住居	17	4	21	544	533	東	南東	6c.末-7c.頭
11	B	H-78号住居	12	1	13	600	538	東	南東隅部西壁 際	7c.前半
12	B	H-80号住居	8	0	8	534	464	東	—	7c.前半
13	B	H-83号住居	13	1	14	390	383	東	南西隅部	6c.後半
14	B	H-84号住居	13	2	15	345	314	東	中西・北西西 壁際	6c.中・後葉
15	B	H-85号住居	11	5	16	508	480	東	中央	6c.末-7c.頭
16	B	H-114号住居	11	6	17	560	534	東	南東部南壁際	6c.末-7c.頭
17	C	H-104号住居	15	13	28	575	568	東	西壁際・北壁 際	6c.末-7c.頭

No.	区	住居	住居 伴う	住居に伴 わない	小計	規模		竈 向き	集中部 (竈基準)	時期
						長軸	短軸			
18	C	H-111号住居	9	2	11	356	347	東	—	6c.後半
19	D	H-113号住居	9	2	11	444	(360)	東	—	古墳-平安
20	D	H-119号住居	8	3	11	394	(256)	東	北西部北壁際	7c.末-7c.頭
21	D	H-120号住居	8	5	13	516	442	東	中南部南壁寄 り	6c.末-7c.頭
22	D	H-121号住居	42	7	49	784	743	東	北東部北壁寄 り	6c.末-7c.頭
23	D	H-122号住居	18	4	22	824	816	東	北東隅部	6c.末-7c.頭
24	D	H-139号住居	17	0	17	468	459	東	—	8c.前半
25	D	H-140号住居	27	17	44	1064	1047	北・東	南西部南壁 際・北西	6c.末-7c.頭
26	D	H-142号住居	9	5	14	913	913	東	北東・北西部	6c.末-7c.頭
27	D	H-145号住居	9	1	10	(283)	279	東	—	6c.末-7c.頭
28	E	H-123号住居	12	8	20	619	585	東	西部散漫	6c.後半
29	E	H-125号住居	13	2	15	620	574	東	西部中央西壁 際	7c.前半
30	E	H-128号住居	16	5	21	632	628	北	—	6c.末-7c.頭
31	F	H-190号住居	26	5	31	667	646	北	西部散漫	6c.末-7c.頭
32	K	H-49号住居	15	10	25	456	442	東	—	7c.前半
33	K	H-68号住居	9	4	13	380	328	東	南西部	7c.後半頃
34	K	H-69号住居	11	3	14	412	392	東	北東部・南西 隅部	6c.後半

表 2 住居別長さ・重量集計一覧

区	遺構	長 さ (cm)					重 量 (g)				
		最小	最大	最大差	平均	偏差	最小	最大	最大差	平均	偏差
B	10号住居	12.3	16.0	3.7	13.6	1.4	260	460	200	333.2	58.5
B	14号住居	12.9	16.2	3.3	14.5	1.2	355	560	205	410.0	71.7
B	18号住居	12.5	15.6	3.1	13.9	1.0	440	630	190	507.9	74.4
B	19号住居	13.5	15.9	2.4	14.3	0.6	150	650	500	448.8	142.9
B	21号住居	8.3	15.3	7.0	11.6	2.4	135	490	355	261.7	117.1
B	27号住居	11.8	17.6	5.8	14.2	2.1	470	1,120	650	758.8	195.0
B	28号住居	11.0	16.8	5.8	14.1	1.4	600	1,050	450	783.8	123.5
B	47号住居	12.5	16.7	4.2	15.3	1.2	435	1,170	735	910.8	201.4
B	56号住居	12.4	16.2	3.8	14.4	1.3	350	760	410	546.7	133.4
B	65号住居	12.2	17.2	5.0	14.4	1.4	450	900	450	601.9	123.7
B	78号住居	11.5	14.6	3.1	13.0	1.0	285	600	315	394.6	93.1
B	80号住居	11.1	15.4	4.3	14.2	1.4	140	900	760	568.8	250.7
B	83号住居	9.9	16.9	7.0	14.8	1.8	250	850	600	561.7	170.7
B	84号住居	13.4	25.4	12.0	16.7	3.3	325	900	575	590.0	167.8
B	85号住居	14.0	19.6	5.6	15.7	1.9	465	1,320	855	807.5	251.4
B	114号住居	13.5	18.0	4.5	16.1	1.4	530	860	330	703.9	113.4
C	104号住居	13.3	16.0	2.7	14.6	0.9	421	775	354	573.1	102.2

区	遺構	長 さ (cm)					重 量 (g)				
		最小	最大	最大差	平均	偏差	最小	最大	最大差	平均	偏差
C	111号住居	3.4	16.7	13.3	15.1	1.1	283	573	290	473.3	101.9
D	113号住居	12.7	15.1	2.4	13.6	0.8	285	465	180	367.9	77.8
D	119号住居	13.2	16.5	3.3	14.4	1.2	315	520	205	418.1	73.1
D	120号住居	13.5	18.3	4.8	16.4	1.8	440	1,080	640	807.1	221.6
D	121号住居	12.3	20.2	7.9	16.1	1.9	382	1,091	709	669.2	170.3
D	122号住居	12.2	18.0	5.8	15.1	1.6	100	1,120	1020	789.9	288.0
D	139号住居	13.1	19.4	6.3	15.9	1.7	205	590	385	380.1	117.1
D	140号住居	9.9	18.5	8.6	13.4	2.7	139	1,165	1026	503.6	309.3
D	142号住居	12.1	16.5	4.4	14.0	1.4	534	1,038	504	700.5	172.0
D	145号住居	14.5	21.1	6.6	17.2	2.3	404	718	314	576.1	100.5
E	123号住居	12.8	17.1	4.3	15.2	1.6	634	1,164	530	872.7	199.7
E	125号住居	13.9	20.6	6.7	17.4	12.3	596	948	352	793.5	107.0
E	128号住居	12.3	18.1	5.8	14.7	1.6	413	800	387	662.2	129.1
F	190号住居	13.3	17.2	3.9	15.3	1.2	440	1,075	635	718.5	166.5
K	49号住居	11.8	16.2	4.4	14.0	1.2	458	872	414	621.4	142.7
K	68号住居	12.7	17.1	4.4	14.8	1.5	440	1,032	592	685.6	250.3
K	69号住居	13.2	20.8	16.9	16.9	2.2	611	1,310	699	808.7	262.2

準偏差は1.2が算出された。

一方、竪穴住居ごとのこも編み石の重量⁽⁴⁾の平均は、B 区H21号住居の261.7gから B 区H47号住居の910.8g とやはり多様であるが、平均の重量が最も軽い B 区 H21 と B 区H10号住居(平均333.2g)及び最も重い E 区 H123号住居(平均872.7g)と B 区H47号住居を除く、D 区H113号住居(平均367.9g)から K 区69号住居(平均 808.7g)までの30軒の平均値は概ね直線的な分布を示す。尚、この重さの平均値の34軒全体での重量の平均は606.2gで、その標準偏差は169.3と算出された。

③ こも編み石に見られる加工痕

こも編み石には人為的使用・加工痕跡が残されるケースが多い。今回対象とした 469 点のこも編み石の中で、摩耗痕、研磨痕、敲打痕が確認された資料は 462 点であるが、これは全体の 90.8%に及んでいる。

こうした加工・使用痕跡のうち、後述する横位を一周する摩耗痕を除けば、表裏面に加工痕跡が認められたこ

も編み石は 161 点あり、その加工痕跡は摩耗痕が 60 点、研磨痕が 102 点、敲打痕が 8 点に見られた。また側縁部に加工痕跡の認められた資料は 300 点を数え、その痕跡は摩耗痕が 82 点、研磨痕が 62 点、敲打痕が 61 点、削痕は 6 点、剥離痕は 61 点であった。一方、端部に加工痕の見られた資料は 21 点と少なく、その痕跡は摩耗痕が 3 点、研磨痕が 5 点、敲打痕が 14 点であった。これらの加工痕跡は全てが研磨や敲打等を主目的として使用したものではなく、特に後述する側縁部の抉れを形成するために施された痕跡も含まれていることを記しておきたい。

さて取り上げた469点では、5 点のうち 1 点に当たる 97 点が石器、石製品からの転用品であった。これらは、磨石83点、敲石 9 点、凹石 2 点、石皿 1 点を数えた。上述のように、先学もこも編み石にこうした石器、石製品が転用される事例のあることを紹介しているが、本遺跡例も同様の見解を示すものである。水田実がこれらを敲石として紹介することになったように(水田 1985)、敲

表3 多比良追部野遺跡こも編み石一覧(1住居8個以上)

	遺構	No.	規 模 (cm)				重量 (g)	平面形	石材種類	摩耗痕一周			表裏面			側縁						端 部			備考		
			長さ	×	幅	× 厚み				摩耗	位置	幅・数	摩耗	研磨	敲打	抉れ	摩耗	研磨	削り	敲打	剥離	自然	摩耗	研磨		敲打	
B	10号住居	2	(11.4)	×	4.4	×	4.6	(250)	長方形	粗粒安山岩						○											上端欠損、側三面に窪
B	10号住居	3	12.4	×	5.5	×	2.6	280	甕形	絹雲母石墨片岩						○											
B	10号住居	4	13.0	×	4.6	×	3.5	300	鷹口形	砂岩			3.9	○			○		○								
B	10号住居	5	12.9	×	7.5	×	4.3	360	分銅形	砂岩	○	中位	3.5				○										凹石からの転用か
B	10号住居	6	15.8	×	7.2	×	2.4	260	包丁形	砂岩						○							○				
B	10号住居	7	12.3	×	6.4	×	4.2	400	台形	砂岩						○		○									
B	10号住居	8	12.7	×	6.8	×	2.7	315	瓢箪形	砂岩						○		○					<○				
B	10号住居	9	13.8	×	7.5	×	2.5	330	靴形	砂岩						○		○					<○				
B	10号住居	10	16.0	×	6.4	×	4.0	460	楔形	砂岩						○		○					<○				
B	10号住居	11	13.5	×	6.2	×	6.8	325	瓜形	砂岩								○									
B	10号住居	12	15.1	×	4.6	×	4.0	355	尖形	安山岩																	
B	10号住居	13	12.4	×	5.5	×	2.6	280	尖形	安山岩	○	下位	1.9					○裏									
B	14号住居	3	16.2	×	6.3	×	2.4	360	包丁形	点紋絹雲母石墨片岩						○				○							
B	14号住居	4	13.9	×	5.3	×	3.0	360	包丁形	絹雲母石墨片岩							○			○		<○					
B	14号住居	5	14.2	×	4.5	×	3.8	400	長円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	1.6									○					
B	14号住居	6	13.5	×	5.9	×	4.2	560	隅丸長方形	硬砂岩						○				○		<○					磨石からの転用
B	14号住居	7	15.2	×	5.7	×	2.5	355	長楕円形	点紋絹雲母石墨片岩						○表		○表									磨石からの転用
B	14号住居	8	12.9	×	5.3	×	3.6	425	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩						○表						<○					
B	14号住居	9	(11.0)	×	7.5	×	4.1	(470)	円弧形	安山岩						○表	○裏										下半欠損、磨石転用
B	14号住居	10	15.4	×	6.2	×	2.8	410	楔形	絹雲母石墨片岩						○表						<○					
B	18号住居	2	14.5	×	7.1	×	4.5	630	スタンプ形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.5				○					<○					
B	18号住居	3	12.5	×	(4.9)	×	3.6	(310)	雫形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	2.9														右側縁欠損
B	18号住居	4	14.1	×	6.1	×	3.5	460	隅丸台形	安山岩	○	中上位	3.5									<○					磨石からの転用
B	18号住居	5	12.7	×	6.2	×	4.4	590	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	3.3														
B	18号住居	6	13.9	×	6.3	×	3.6	460	楕円形	安山岩	○	中位	3.6					○		<○							
B	18号住居	7	14.2	×	6.7	×	3.7	440	楕円形	安山岩	○	中位	2.9-4.4														右縁部と裏面窪む
B	18号住居	8	13.3	×	5.8	×	3.6	460	長方形	安山岩	○	中位	3.4			○			○								磨石からの転用
B	18号住居	9	15.6	×	6.8	×	3.3	515	豆形	安山岩	○	中下位	4.6			○											磨石からの転用
B	19号住居	5	14.5	×	4.2	×	4.2	570	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.0														
B	19号住居	6	(11.6)	×	6.9	×	2.9	330	尖形	絹雲母石墨片岩						○											
B	19号住居	7	14.0	×	12.4	×	3.4	370	楕円形	砂岩						○											
B	19号住居	8	13.5	×	5.8	×	1.5	150	人形	絹雲母石墨片岩						○表		○				<○					
B	19号住居	9	(9.8)	×	5.7	×	(2.2)	(180)	楕円形	絹雲母石墨片岩						○表		○					<○				下半欠損
B	19号住居	10	13.6	×	5.4	×	4.6	420	隅丸短冊形	安山岩									○	○		○					○上 敲石・磨石からの転用
B	19号住居	11	14.2	×	5.9	×	3.2	425	楕円形	安山岩	○	中位	3.4														
B	19号住居	12	14.6	×	7.5	×	(3.4)	(450)	楕円形	絹雲母石墨片岩						○				○		<○					表面下半剥落
B	19号住居	13	(12.5)	×	7.5	×	(1.6)	(310)	隅丸長方形	点紋絹雲母石墨片岩						○表			○右		<○						裏面と下部欠損
B	19号住居	14	15.0	×	6.1	×	3.9	520	尖形	輝岩	○	中位	4.1					○									
B	19号住居	15	14.1	×	5.8	×	4.6	515	隅丸三角形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.1					○左									
B	19号住居	16	15.9	×	7.0	×	3.8	650	楕円形	安山岩						○表									○		敲石からの転用
B	19号住居	17	(16.5)	×	7.8	×	(2.5)	(460)	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩						○表		○									裏面剥落、下部欠損
B	19号住居	18	14.0	×	7.0	×	3.3	480	楕円形	絹雲母石墨片岩								○				<○					凹石からの転用
B	19号住居	19	14.2	×	5.3	×	2.7	325	雫形	緑泥片岩												○右					
B	19号住居	20	(9.2)	×	4.4	×	(1.3)	(70)	隅丸短冊形	絹雲母石墨片岩								○左					<○左				裏面剥離、下部欠損
B	19号住居	21	14.5	×	7.6	×	3.8	630	隅丸長方形	輝岩						○											
B	21号住居	3	(12.7)	×	(5.4)	×	2.9	(260)	楕円形	絹雲母石墨片岩						○		○右					<○右				左側・下位欠損
B	21号住居	4	(12.8)	×	(5.4)	×	2.9	(310)	小刀形	絹雲母石墨片岩								○		○右							左側・下位欠損
B	21号住居	5	8.3	×	4.9	×	3.2	180	柄形	絹雲母石墨片岩						○表											
B	21号住居	6	10.3	×	5.4	×	3.0	190	小刀形	砂岩								○					<○				
B	21号住居	7	11.7	×	(5.1)	×	3.3	(270)	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.9	○上													右側・裏面右側欠損
B	21号住居	8	9.4	×	6.0	×	3.3	250	隅丸台形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	2.5									<○					
B	21号住居	9	14.3	×	6.2	×	3.4	490	楕円形	輝岩	○	中位	3.2														右側摩耗広がる
B	21号住居	10	12.7	×	5.6	×	2.8	303	分銅形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	2.9					○				<○					
B	21号住居	11	15.3	×	5.6	×	2.5	284	隅丸短冊形	砂岩	○	中下位	4.1					○				<○					側縁平坦面
B	21号住居	50	10.7	×	5.6	×	2.4	135	スタンプ形	砂岩	○	中下位	2.1					○		<○右		<○左					
B	27号住居	5	13.3	×	9.1	×	4.7	800	楕円形	安山岩	○	中下位	3.0					○									
B	27号住居	6	11.8	×	7.4	×	4.2	570	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.4					○右				<○右					左側縁荒れ
B	27号住居	7	16.4	×	7.6	×	6.6	1,120	船形	安山岩	○	中下位	1.5-4.2														
B	27号住居	8	14.6	×	6.8	×	6.4	870	半楕円形	安山岩						○表		○		<○							磨石からの転用
B	27号住居	9	17.6	×	8.3	×	3.5	760	瓜形	安山岩						○							<○				
B																											

区	遺構	No.	規 模 (cm)			重量 (g)	平面形	石材種類	摩耗痕一周			表裏面			側 縁					端 部			備考		
			長さ	×	幅	×	厚み		摩耗	位置	幅・数	摩耗	研磨	敲打	抉れ	摩耗	研磨	削り	敲打	剥離	自然	摩耗	研磨	敲打	
B	28号住居	21	14.0	×	8.6	×	4.1	710	楕円形	絹雲母石墨片岩										<○左					
B	28号住居	22	14.1	×	8.1	×	5.1	630	長方形	石英閃緑岩						○裏	○裏	○左							磨石からの転用
B	28号住居	23	12.9	×	6.9	×	4.1	600	隅丸長方形	安山岩						○	○表	○	<○						磨石からの転用
B	28号住居	24	15.7	×	6.7	×	5.7	820	楕円形	安山岩	○	中位	4.6-6.6			○表						○左			
B	28号住居	25	15.3	×	5.9	×	5.4	750	隅丸長方形	安山岩	○	中下位	3.4					○右				<○右			
B	28号住居	26	14.7	×	8.7	×	3.9	760	長方形	安山岩	○	中下位	4.0				○右	<○右							
B	28号住居	27	14.0	×	7.6	×	3.8	610	瓢箪形	安山岩	○	中位	5.3				○右					<○右			
B	28号住居	28	14.3	×	7.8	×	5.0	890	楕円形	安山岩						○		○				<○			
B	47号住居	20	13.3	×	8.1	×	5.1	1,085	隅丸長方形	安山岩						○						○			○
B	47号住居	21	16.7	×	7.0	×	4.9	985	瓜形	安山岩	○	中位	1.5-4.0			○表		○				○右			
B	47号住居	22	13.6	×	5.9	×	6.9	890	楕円形	安山岩	○	中上位	1.0-3.5									○一部			
B	47号住居	23	14.6	×	7.3	×	6.6	1,170	楕円形	安山岩	○	中位	4.5			○		○右							○下 直方体状石材使用
B	47号住居	24	12.5	×	7.8	×	5.9	1,010	楕円形	安山岩			5.5				○								
B	47号住居	25	13.7	×	7.3	×	5.2	725	隅丸長方形	石黒絹雲母片岩								○	<○						
B	47号住居	26	14.7	×	8.6	×	6.2	1,100	瓜形	安山岩	○	中位	1.5-5.0				○右	<○右							
B	47号住居	27	13.3	×	8.7	×	4.6	940	隅丸長方形	輝岩		中位	1.5-3.0			○裏	○裏					○	○		裏面に浅い溝
B	47号住居	28	14.2	×	8.0	×	5.3	1,000	楕円形	絹雲母石墨片岩						○		○	<○						
B	47号住居	29	14.7	×	6.0	×	6.0	810	芋形	安山岩	○	中上位	4.0			○表		○右	<○右						
B	47号住居	30	16.4	×	7.3	×	3.8	435	火打金形	砂岩						○裏		○右	<○右					<○左	
B	47号住居	31	14.0	×	9.4	×	4.1	780	隅丸長方形	流紋岩						○裏	○表							<○	
B	56号住居	8	13.3	×	7.5	×	3.6	560	磬形	輝岩	○	中位	2.5					○右	<○右			<○右			
B	56号住居	9	13.1	×	7.3	×	3.5	540	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩						○表		○左						<○左	
B	56号住居	10	13.2	×	5.6	×	4.0	450	丁字形	安山岩	○	中位	6.5									○			磨石からの転用
B	56号住居	11	15.2	×	7.1	×	4.7	730	隅丸長方形	安山岩						○	○表					○			磨石からの転用
B	56号住居	12	15.3	×	5.1	×	4.5	510	楔形	流紋岩	○	中位	3.0			○					○左				磨石からの転用
B	56号住居	13	16.2	×	5.2	×	3.3	510	隅丸長方形	緑簾緑泥片岩	○	中上位	4.4-6.2				○	<○							
B	56号住居	14	16.1	×	6.9	×	4.4	710	円弧形	安山岩	○	中位	4.6-7.0					<○						<○右	
B	56号住居	15	12.4	×	6.5	×	3.2	350	隅丸台形	安山岩	○	中下位	2.2-4.6			○表	○裏		○						磨石からの転用か
B	56号住居	16	14.8	×	6.9	×	4.2	760	隅丸長方形	輝岩	○	中位	4.5					○	<○						
B	56号住居	17	13.2	×	7.1	×	2.7	350	刀子形	安山岩	○	中上位	4.5-5.5					○						<○	
B	56号住居	18	15.3	×	6.8	×	3.6	560	米粒形	絹雲母石墨片岩	○	上半	5.0												
B	56号住居	19	15.5	×	6.0	×	4.0	530	刀子形	絹雲母石墨片岩	○	上半	5.5					○左	<○左						
B	65号住居	3	15.4	×	7.2	×	4.6	900	楕円形	安山岩	○	中位	4.5					○	<○						
B	65号住居	4	15.2	×	(7.5)	×	3.0	(490)	隅丸台形	安山岩	○	中位	3.0			○	○表								左縁部欠損
B	65号住居	6	12.4	×	6.4	×	4.0	450	楕円形	流紋岩	○	上位	6.0			○裏		○右	<○右						
B	65号住居	7	16.4	×	6.4	×	5.2	590	長米粒形	砂岩	○	中位	2.0-3.0												横断面三角形
B	65号住居	8	12.2	×	7.3	×	4.3	570	楕円形	安山岩	○	上位	3.5					○左						<○左	磨石からの転用か
B	65号住居	9	13.3	×	8.5	×	4.0	760	磬形	輝緑凝灰岩	○	中位	2.5					○						<○左	右縁自然凹部
B	65号住居	10	13.4	×	6.6	×	5.3	640	米粒形	安山岩	○	中上位	7.0			○									磨石の転用、断面三角
B	65号住居	11	13.3	×	5.5	×	5.1	580	楔形	流紋岩	○	中位	4.0			○						○上			磨石の転用、断面方形
B	65号住居	12	17.2	×	7.3	×	3.0	605	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	3.2-3.9					○						<○	
B	65号住居	13	15.1	×	6.9	×	3.3	520	隅丸長方形	安山岩	○	中位	5.6			○		○	<○						磨石からの転用
B	65号住居	14	13.7	×	6.6	×	3.2	450	楕円形	安山岩	○	中位	3.0			○裏		○						<○	磨石からの転用
B	65号住居	15	14.6	×	6.9	×	3.3	540	隅丸台形	安山岩						○表		○	<○						磨石からの転用
B	65号住居	16	15.3	×	7.2	×	3.1	560	幅広い鎌形	安山岩	○	中位	4.0-5.0					○	<○						
B	65号住居	17	15.8	×	6.3	×	4.7	630	隅丸長方形	安山岩						○		○	<○	○右			○		磨石からの転用
B	65号住居	18	14.9	×	7.6	×	3.7	575	水滴形	安山岩	○	中位	2.1			○表		○						<○	磨石からの転用
B	65号住居	19	13.5	×	6.9	×	3.7	470	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中上位	2.3					○						<○左	
B	65号住居	20	13.6	×	8.0	×	4.0	790	隅丸長方形	安山岩	○	中位	2.6												磨石からの転用
B	78号住居	3	13.5	×	6.7	×	3.0	460	円弧形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.0-2.5					○右	<○右					<○右	
B	78号住居	4	13.6	×	5.7	×	3.8	490	楔形	緑泥片岩	○	上位	3.0												裏面右側欠損
B	78号住居	5	13.8	×	6.6	×	3.5	390	磬形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.0-3.8					○						<○	左側欠損加工か、抉れ上位
B	78号住居	6	11.5	×	7.0	×	2.3	290	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.4-2.9												
B	78号住居	7	12.1	×	7.4	×	2.8	390	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.5-3.0					○						<○右	抉れ上位
B	78号住居	8	14.6	×	6.2	×	4.6	600	楕円形	安山岩	○	上位	2.5			○									磨石からの転用
B	78号住居	9	11.8	×	7.5	×	2.1	330	楕円形	緑泥片岩	○	中位	1.0					○右						<○右	
B	78号住居	10	13.2	×	5.5	×	4.2	425	楔形	流紋岩	○	中位	3.3-3.9												横断面三角形
B	78号住居	11	13.5	×	6.5	×	2.5	320	楕円形	石墨片岩	○	中位	2.5-3.0					○						<○右	
B	78号住居	12	11.6	×	5.8	×	2.9	285	米粒形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.0					○	<○						横断面三角形、抉れ中位
B	78号住居	13	13.0	×	7.4	×	3.0	430	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	3.5												
B	78号住居	14	13.7	×	6.3	×	2.5	325	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	1.8					○右	<○右						
B	80号住居	6	14.6	×	7.7	×	2.8	490	スタンプ形	絹雲母石墨片岩								○	<○						表面剥離
B	80号住居	7	11.1	×	2.9	×	2.9	140	棒形	絹雲母石墨片岩	○	上・下	2.4-1.7				○>端	○							
B	80号住居	8	14.9	×	6.4	×	6.6	900	楕円形	安山岩	○	中位	2.0			○								○右	○ 磨石・敲石からの転用
B	80号住居	9	15.4	×	7.8	×	4.3	670	隅丸台形	流紋岩	○	中位	3.0-3.5			○									磨石からの転用か
B	80号住居	10	14.9	×	4.3	×	4.3	810	幅広い鎌形	砂岩	○	中位	1.2-2.1					○	<○						抉れ部平坦
B	80号住居	11	13.4	×	7.0	×	5.7	310	楕円形	軽石						○									磨石からの転用
B	80号住居	12	15.1	×	6.2	×	5.3	600	鑿形	安山岩	○	中位	3.1-3.9			○裏									磨石からの転用
B	80号住居	13	14.4	×	7.2	×	4.0	630	楕円形	硬砂岩	○	上位	2.3					○右						<○右	
B	83号住居	3	14.8	×	4.5	×	4.3	435	棒形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	1.8												角柱状石材
B	83号住居	4	13.7	×	5.6	×	3.9	460	円弧形	安山岩	○	中上位	2.8-3.1												
B	83号住居	5	15.3	×	6.0	×	4.2	655	鑿形	緑簾緑泥片岩	○	中・下	1.7-2.6					○左						<○左	
B</																									

	No.	規 模 (cm)			重量 (g)	平面形	石材種類	摩耗痕一周			表裏面			側縁					端 部				備考			
		長さ	×	幅				×	厚み	摩耗	位置	幅・数	摩耗	研磨	敲打	抉れ	摩耗	研磨	削り	敲打	剥離	自然		摩耗	研磨	敲打
B 83号住居	13	14.4	×	5.6	×	4.9	540	楕円形	安山岩	○	下位	2.0				○左		○右								
B 83号住居	14	9.9	×	5.8	×	4.5	250	隅丸台形	砂岩		上・下	1.8	○													
B 83号住居	15	16.3	×	(6.1)	×	3.8	(680)	中華包丁形	絹雲母石墨片岩		上位	3.8	○													左下部欠損
B 84号住居	2	17.9	×	7.1	×	3.5	550	包丁形	輝緑岩	○	中位	2.8								○左						
B 84号住居	3	25.4	×	8.0	×	3.1	500	米粒形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.5				○					○					
B 84号住居	4	13.4	×	5.2	×	4.4	530	棒形	安山岩	○	中位	2.5			○裏				○左							磨石からの転用
B 84号住居	5	15.1	×	6.5	×	6.1	900	棒形	安山岩	○	中位	3.9-5.3			○裏				○左							磨石からの転用
B 84号住居	6	14.1	×	6.6	×	3.8	400	楕円形	砂岩	○	下位	1.8-2.5														
B 84号住居	7	16.4	×	7.2	×	4.2	720	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.5				○					<○					
B 84号住居	8	15.3	×	5.6	×	3.5	480	円弧形	緑泥片岩	○	上位	1.4-1.8														左側縁の割れ材使用
B 84号住居	9	19.8	×	7.0	×	3.8	720	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中下位	2.0														
B 84号住居	10	18.1	×	8.9	×	(4.2)	(1050)	楕円形	石墨絹雲母片岩	○	中位	3.2				○			<○		<○					
B 84号住居	11	12.7	×	6.2	×	4.4	325	隅丸長方形	砂岩	○	中下位	2.8				○					<○					
B 84号住居	12	15.8	×	6.0	×	5.9	875	磬形	安山岩	○	中位	1.8				○				<○左						
B 84号住居	13	15.1	×	6.9	×	4.0	490	楕円形	流紋岩	○	下位	2.3			○表											磨石からの転用
B 84号住居	14	14.4	×	8.8	×	3.2	465	隅丸台形	砂岩	○	上・中・下	2.4・2.3				○	<○									
B 85号住居	10	17.4	×	9.7	×	4.2	1,030	楕円形	絹雲母片岩	○	上位	4.2														
B 85号住居	11	14.7	×	6.9	×	4.6	765	包丁形	安山岩	○	中位	5.0			○表		○右	<○右								磨石からの転用
B 85号住居	12	14.0	×	5.7	×	4.9	735	円弧形	斑礫岩	○	中位	4.0				○右										
B 85号住居	13	14.1	×	6.7	×	5.4	680	楕円形	礫岩	○	中下位	2.7				○右					<○右	<○左				
B 85号住居	14	19.6	×	8.5	×	5.8	1,320	楕円形	安山岩	○	下位	5.0			○表		○左		<○左		<○左					
B 85号住居	15	(17.0)	×	(8.9)	×	4.9	960	楕円形	安山岩	○	中位	5.7								○左						
B 85号住居	16	(14.8)	×	7.0	×	3.4	(440)	台形	絹雲母石墨片岩								○左				<○左					下部・左側欠損
B 85号住居	17	(15.6)	×	5.5	×	5.1	(780)	長方形	輝岩			2.0	○表			○左	<○左									左側上位欠損
B 85号住居	18	15.3	×	7.5	×	3.9	730	楕円形	安山岩	○	上位	5.5			○		○	<○								磨石からの転用
B 85号住居	19	14.4	×	8.8	×	4.2	870	中華包丁形	安山岩	○	中位	4.6			○表			○右								磨石からの転用
B 85号住居	20	15.2	×	6.9	×	4.8	520	磬形	安山岩	○	中位	3.5					○右	<○右				<○				
B 114号住居	8	18.0	×	7.8	×	3.0	530	瓢箪形	安山岩	○	中上位	5-5.6					○左				<○左					
B 114号住居	9	14.2	×	6.8	×	3.6	615	楕円形	緑簾緑泥片岩	○	中上位	4.3				○					<○					
B 114号住居	10	13.5	×	6.5	×	3.6	730	米粒形	点紋絹雲母石墨片岩	○	上位	3.0														
B 114号住居	11	16.3	×	5.8	×	4.4	610	円弧形	絹雲母石墨片岩	○	中・上	7.9														
B 114号住居	12	15.4	×	5.5	×	4.6	590	フラスコ形	安山岩	○	上位	4.0			○表											右側自然四部、磨石転用か
B 114号住居	13	16.8	×	5.9	×	5.9	860	落花生形	安山岩	○	中位	3.6														
B 114号住居	14	16.8	×	7.3	×	4.3	850	隅丸長方形	流紋岩	○	中位	5.1-6.8					○		<○							
B 114号住居	15	15.8	×	8.1	×	3.4	670	鈎形	流紋岩	○	中上位						○				<○右	<○左				
B 114号住居	16	17.7	×	7.5	×	4.1	845	水滴形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.6-3.0														両側縁自然面利用
B 114号住居	17	16.7	×	6.7	×	4.8	738	隅丸長方形	安山岩	○	中位	4.1			○											
B 114号住居	18	16.5	×	7.5	×	4.0	705	隅丸長方形	溶結凝灰岩	○	中位	2.6					○右				<○右					
C 104号住居	9	14.2	×	6.2	×	4.4	535	剣形	安山岩	○	中上位	5.0			○裏		○				<○左	<○右				磨石からの転用
C 104号住居	10	14.5	×	7.2	×	4.1	662	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.8					○				<○					
C 104号住居	11	14.9	×	6.7	×	4.2	609	楕円形	石墨雲母片岩	○	上位	3.9														
C 104号住居	12	14.5	×	7.3	×	3.7	485	瓢箪形	安山岩	○	中位	3.9			○		○				<○					磨石からの転用
C 104号住居	13	13.6	×	8.8	×	3.8	703	楕円形	安山岩	○	中位	3.4				○	○		<○							磨石からの転用
C 104号住居	14	14.2	×	6.8	×	4.6	528	片瓢箪形	安山岩	○	上位	3.4														
C 104号住居	15	13.6	×	6.8	×	3.0	446	剣形	石墨絹雲母片岩	○	中下位	4.6					○右				<○右					
C 104号住居	16	14.2	×	6.2	×	4.6	695	刀子形	安山岩	○	中位	2.3			○表											
C 104号住居	17	15.8	×	7.1	×	2.7	505	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.4					○右				○右	<○右				
C 104号住居	18	15.0	×	7.1	×	4.1	614	楕円形	安山岩	○	下位	3.9			○											
C 104号住居	19	15.9	×	4.6	×	3.7	421	防火達	絹雲母石墨片岩	○	中位	6.4														
C 104号住居	20	13.3	×	5.7	×	4.1	523	篋形	安山岩	○	中上位	3.9			○表			○								
C 104号住居	21	16.0	×	6.5	×	3.2	593	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	5.9					○右					<○右				
C 104号住居	22	13.7	×	6.2	×	3.4	503	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.2														
C 104号住居	23	15.9	×	6.9	×	4.4	775	隅丸長方形	安山岩	○	中上位	5.4														
C 111号住居	3	14.6	×	7.8	×	3.3	573	盾形	安山岩	○	中位	5.7					○右						<○右			
C 111号住居	4	15.1	×	7.2	×	2.2	370	片瓢箪形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	4.5				○					<○左	<○右				
C 111号住居	5	16.5	×	7.9	×	2.8	549	刀子形	絹雲母石墨片岩	○	中位	5.3														
C 111号住居	6	(15.6) × (5.15) × (5.5)				(531)	棒形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	4.6						○				<○					下位及び右側部欠損
C 111号住居	7	15.2	×	7.7	×	4.0	564	楕円形	安山岩	○	中位	2.9			○		○		<○							磨石からの転用
C 111号住居	8	14.0	×	5.3	×	4.3	449	楕円形	安山岩	○	中位	3.9			○	</										

区	遺構	No.	規 模 (cm)			重量 (g)	平面形	石材種類	摩耗痕一周			表裏面			側 縁						端 部			備考	
			長さ	×	幅	×	厚み		摩耗	位置	幅・数	摩耗	研磨	敲打	抉れ	摩耗	研磨	削り	敲打	剥離	自然	摩耗	研磨	敲打	
D 119号住居	9	16.5	×	7.3	×	3.8	445	瓢箪形	砂岩	○	中位	2.5			○右					<○右					
D 120号住居	5	17.1	×	8.2	×	6.0	1,030	拳銃形	流紋岩	○	上位	3.4		○							<○				
D 120号住居	6	18.3	×	7.5	×	3.2	725	瓢箪形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	4.8			○				<○						
D 120号住居	7	17.8	×	8.0	×	4.2	850	滴形	赤色珪質頁岩	○	中下位	4.7													
D 120号住居	8	13.5	×	6.5	×	3.5	440	楕円形	石英閃緑岩	○	中位	3.0		○表											
D 120号住居	9	14.5	×	6.8	×	5.5	655	隅丸台形	安山岩	○	中位	3.3		○裏			○								横断面三角、磨石の転用
D 120号住居	10	17.1	×	8.4	×	4.1	870	包丁形	安山岩	○	中位	3.3											○下		磨石からの転用
D 120号住居	11	16.7	×	7.4	×	6.1	1,080	楕円形	安山岩	○	中位	4.5		○表											磨石からの転用
D 120号住居	12	(16.7) ×	7.2	×	5.3	(870)	刀子形	流紋岩	○	中位	4.0		○表	○左							<○左				
D 121号住居	10	16.5	×	5.9	×	4.8	698	片瓢箪形	安山岩	○	中上位	3.4				○左					○右				磨石からの転用
D 121号住居	11	15.5	×	(6.65) ×	3.8	(584)	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.6														
D 121号住居	12	15.3	×	4.5	×	4.4	584	滴形	緑簾緑泥片岩	○	斜方	2.8													裏面下位欠損
D 121号住居	13	12.7	×	7.6	×	3.2	464	楕円形	安山岩	○	中・上	3.2		○表											磨石からの転用、摩耗斜め
D 121号住居	14	20.2	×	(5.4) ×	3.1	(430)	棒形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中下位	3.1				○左					<○左					
D 121号住居	15	17.2	×	9.1	×	3.8	866	瓢箪形	安山岩	○	中位	3.0		○裏	○右					<○右					磨石からの転用
D 121号住居	16	(14.4) ×	6.5	×	3.5	(469)	瓢箪形	輝岩	○	中位	4.2				○		<○				<○				抉れは左側下、右側中・上
D 121号住居	17	15.4	×	7.5	×	3.5	508	楕円形	砂岩	○	中位	3.7					○左								磨石からの転用
D 121号住居	18	16.7	×	6.2	×	4.8	856	瓢箪形	角閃岩	○	上位	3.1			○左					<○左					抉れは上位
D 121号住居	19	15.9	×	7.1	×	3.2	579	刀子形	絹雲母石墨片岩	○	上位	3.1				○右									
D 121号住居	20	15.1	×	6.2	×	3.7	582	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.3													
D 121号住居	21	15.1	×	6.7	×	4.3	708	隅丸長方形	安山岩	○	中位	1.9		○裏	○右	<○右									
D 121号住居	22	(14.1) ×	(5.75) ×	(4.9)	(370)	楕円形	砂岩	○	中位	3.8															風化顕著
D 121号住居	23	13.6	×	7.2	×	3.2	435	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.0				○右	<○右								
D 121号住居	24	15.3	×	8.6	×	3.5	468	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.6				○	<○								
D 121号住居	25	17.3	×	5.8	×	5.0	738	刀子形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	6.1					○左							○上	磨石からの転用
D 121号住居	26	13.9	×	6.4	×	6.4	497	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.2													
D 121号住居	27	20.2	×	(6.9) ×	(2.2)	(419)	楕円形	石墨絹雲母片岩	○	中位	6.0														裏面欠損
D 121号住居	28	(16.4) ×	5.7	×	5.9	(1,099)	片瓢箪形	安山岩	○	上位	4.8				○右						<○右				直方体の石材、両端欠損
D 121号住居	29	18.3	×	7.7	×	4.7	984	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	5.0													
D 121号住居	30	18.8	×	8.9	×	4.6	1,091	鐮形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	4.8			○右					<○右					表面に凹部
D 121号住居	31	17.4	×	7.0	×	2.9	572	包丁形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	5.6													
D 121号住居	32	17.1	×	8.0	×	3.9	864	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	5.6													
D 121号住居	33	18.1	×	8.1	×	4.8	915	刀子形	安山岩	○	中位	4.7			○左					<○左	<○左				
D 121号住居	34	17.8	×	8.4	×	3.4	811	包丁形	絹雲母石墨片岩	○	中位	5.7													
D 121号住居	35	14.4	×	7.2	×	4.5	703	盾形	緑泥片岩	○	中位	5.0			○										
D 121号住居	36	12.3	×	7.8	×	3.2	453	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	3.5			○					<○					
D 121号住居	37	(16.8) ×	7.1	×	4.5	(785)	刀子形	輝岩	○	中位	4.6														下端欠損
D 121号住居	38	13.7	×	6.6	×	4.1	497	片瓢箪形	安山岩	○	中位	3.1		○			○								裏面使用の磨石からの転用
D 121号住居	39	18.7	×	7.4	×	5.1	803	隅丸長方形	砂岩	○	中位	4.7			○左					<○左					
D 121号住居	40	(12.6) ×	7.4	×	3.6	(477)	瓢箪形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	3.2				○					<○					上端欠損
D 121号住居	41	16.5	×	7.8	×	3.3	678	隅丸長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.3			○左										
D 121号住居	42	16.0	×	8.2	×	4.0	818	楕円形	石墨雲母片岩	○	中位	5.1			○左						<○左				
D 121号住居	43	14.3	×	7.0	×	3.7	585	楕円形	安山岩	○	中上位	4.4													
D 121号住居	44	17.7	×	7.7	×	5.5	811	刀子形	砂岩	○	中上位	4.7													
D 121号住居	45	14.6	×	6.7	×	3.3	629	包丁形	角閃岩	○	中位	4.0													側面に段々有する
D 121号住居	46	16.0	×	7.1	×	3.3	597	楕円形	安山岩	○	中位	3.1		○裏	○		<○								磨石からの転用
D 121号住居	47	15.7	×	6.4	×	3.5	610	隅丸長方形	安山岩	○	中位	4.3													
D 121号住居	48	17.5	×	6.9	×	4.5	596	包丁形	絹雲母石墨片岩	○	上位	3.1			○					<○					抉れは長さ5.9cm、幅2.5cm
D 121号住居	49	15.0	×	5.3	×	4.8	382	錐形	砂岩	○	中位	3.6													
D 121号住居	50	13.5	×	6.2	×	4.9	607	盾形	緑泥片岩							○									角柱状礫、側縁摩耗は中位
D 121号住居	51	15.8	×	8.2	×	4.0	764	包丁形	絹雲母石墨片岩	○	中位	5.6													
D 122号住居	16	18.0	×	9.3	×	4.4	1,070	片瓢箪形	安山岩	○	中位	4.4			○					<○左	<○右				抉れは右中位、左中・上位
D 122号住居	17	16.8	×	(7.3) ×	5.5	(975)	錐形	安山岩	○	中位	2.1		○表		○右			<○右							横断面三角、磨石の転用
D 122号住居	18	16.3	×	9.0	×	3.8	1,010	長方形	安山岩	○	中位	3.7			○		<○								
D 122号住居	19	12.2	×	7.0	×	2.1	215	片瓢箪形	砂岩	○	上・下	2.4・1.8						<○右		○					
D 122号住居	20	14.3	×	9.0	×	3.6	720	滴形	流紋岩	○	中位	4.1													表面中央被熱
D 122号住居	21	15.4	×	7.1	×	2.8	520	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.7-3.3			○					<○					
D 122号住居	22	16.6	×	6.6	×	6.2	810	刀子形	安山岩	○	中上位	2.2-2.9													
D 122号住居	23	14.8	×	8.5	×	4.4	980	隅丸長方形	安山岩	○	中位	4.0		○表											表面凹凸、磨石からの転用
D 122号住居	24	13.0	×	9.2	×	4.4	830	楕円形	安山岩	○	中上位	3.0			○右						<○右				磨石からの転用
D 122号住居	25	13.2	×	7.9	×	4.9	855	楕円形	安山岩	○	中位	2.2-3.7											○		一部剥離
D 122号住居	26	13.4	×	7.7	×	4.3	830	隅丸長方形	斑レイ岩	○	中位	4.3													
D 122号住居	27	16.1	×	9.0	×	5.0	100	楕円形	安山岩	○	中上位	2.6			○		<○								抉れ左中、右上、摩耗斜
D 122号住居	28	15.4	×	9.4	×	5.1	1,120	楕円形	安山岩	○	中位	4.2													裏面中位の凹部利用
D 122号住居	29	15.5	×	9.0	×	4.3	1,048	片瓢箪形	安山岩	○	中上位	3.6		○	○右					<○右					
D 122号住居	30	15.4	×	9.3	×	4.2	900	隅丸長方形	安山岩	○	中位	3.9			○左		<○左								抉れは下位
D 122号住居	31	13.8	×	8.3	×	4.8	830	楕円形	安山岩	○	中位	4.2													
D 122号住居	32	16.0	×	8.0	×	4.4	800	包丁形	安山岩	○	中位	3.6													
D 122号住居	33	(18.3) ×	9.2	×	4.5	(935)	隅丸台形	安山岩	○	上・下	2.7・2.1				○右						<○右				表裏面一部欠損
D 139号住居	5	18.1	×	4.0	×	4.6	248	棒形	絹雲母石墨片岩	○	上・下	2.5・4.2													一部欠損
D 139号住居	6	15.6	×	4.2	×	4.2	447	錐形	安山岩	○	上位	2.4													自然面利用
D 139号住居	7	15.3	×	4.7	×																				

研究紀要39

	遺構	No.	規 模 (cm)				重量 (g)	平面形	石材種類	摩耗痕一周			表裏面			側縁					端 部			備考		
			長さ	×	幅	× 厚み				摩耗	位置	幅・数	摩耗	研磨	敲打	抉れ	摩耗	研磨	削り	敲打	剥離	自然	摩耗		研磨	敲打
D	139号住居	13	13.1	×	4.7	×	2.1	205	錐形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.5													
D	139号住居	14	19.4	×	6.3	×	2.0	505	台形	緑泥片岩	○	中下位	3.5			○左							<○左			抉れ中下位にあり
D	139号住居	15	16.0	×	5.8	×	3.1	430	半台形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	4.4			○左							<○左			抉れ中位にあり
D	139号住居	16	(15.8)	×	6.1	×	3.6	(489)	窠形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	2.7			○右							<○右			下端欠、抉れ中上位
D	139号住居	17	15.4	×	6.0	×	2.8	399	片瓢箪形	緑泥片岩	○	上・下	3.7・3.4			○左							<○左			
D	139号住居	18	16.9	×	6.2	×	2.8	388	包丁形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.9			○左							<○左			抉れ下位にあり
D	139号住居	19	14.7	×	(5.1)	×	(4.0)	(389)	長方形	石墨絹雲母片岩	○	中上位	3.1			○左							<○左			裏面剥離、抉れ下位にあり
D	139号住居	20	17.7	×	4.6	×	4.6	560	楕円形	安山岩	○	中位	3.4										○			自然面利用
D	139号住居	22	14.5	×	4.4	×	2.5	209	包丁形	砂岩	○					○		○右	<○							砥石転用、抉れ複数
D	140号住居	8	9.9	×	6.6	×	3.8	346	楕円形	安山岩	○	中位	4.1													表面荒れ凹凸顕著
D	140号住居	9	10.6	×	5.7	×	1.6	139	菱形	砂岩	○	中位	2.9													
D	140号住居	10	12.4	×	4.8	×	2.2	236	菱形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	2.6			○							<○			
D	140号住居	11	10.0	×	6.5	×	2.1	263	方形	紅簾絹雲母石墨片岩	○	中位	3.0													
D	140号住居	12	11.6	×	7.1	×	2.2	285	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.2													
D	140号住居	13	(16.05)	×	8.3	×	3.5	(531)	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	上半	4.6													
D	140号住居	14	11.7	×	6.3	×	2.2	173	楕円形	砂岩	○	中位	3.4										<○右			抉れ中位下寄り
D	140号住居	15	12.4	×	6.2	×	2.3	240	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中上位	2.7			○							<○			抉れ中位上寄り
D	140号住居	16	10.7	×	3.5	×	3.3	238	包丁形	砂岩	○	中位	2.5													
D	140号住居	17	10.3	×	5.1	×	2.3	143	片瓢箪形	砂岩	○	中位	3.6			○右							<○右			
D	140号住居	18	10.2	×	5.9	×	2.8	161	米粒形	砂岩	○	中下位	3.5													
D	140号住居	19	14.2	×	8.4	×	2.5	585	隅丸長方形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中下位	2.9													板状の石材使用
D	140号住居	20	11.9	×	6.1	×	5.7	231	瓢箪形	砂岩	○	中位	2.0					○								抉れ中位
D	140号住居	21	9.9	×	5.7	×	5.7	185	鑿形	砂岩	○	中位	2.7			○							<○			抉れ中位
D	140号住居	22	16.2	×	7.6	×	5.0	916	包丁形	安山岩	○	中上位	1.8-2.7													
D	140号住居	23	15.0	×	7.5	×	4.4	826	楕円形	安山岩	○	中位	2.5													中位の弱い湾曲利用
D	140号住居	24	14.4	×	6.7	×	3.9	531	楕円形	絹雲母片岩	○	中位	3.1													左側一部欠損
D	140号住居	25	18.5	×	7.4	×	7.4	649	フラスコ形	砂岩	○	中上位	1.5-2.7			○左							<○左			
D	140号住居	26	15.5	×	7.6	×	7.6	861	楕円形	安山岩	○	中位	3.1													磨石からの転用
D	140号住居	27	15.3	×	8.9	×	8.9	962	台形	安山岩	○	中位	2.2			○										磨石からの転用
D	140号住居	28	15.9	×	7.7	×	7.7	695	樽形	輝緑岩	○	中位	3.0													表縦削、端剥離、磨石転用
D	140号住居	29	17.9	×	6.8	×	6.8	702	隅丸長方形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中上位	2.6			○右							<○右			抉れ中上位、磨石の転用
D	140号住居	30	13.5	×	7.5	×	3.9	567	楕円形	安山岩	○	中位	1.9			○										磨石からの転用
D	140号住居	31	13.2	×	4.7	×	3.5	382	長方形	石墨雲母片岩	○	中位	2.5													
D	140号住居	32	14.4	×	7.7	×	3.6	687	窠形	安山岩	○	中下位	3.1			○		○右					<○右			磨石からの転用
D	140号住居	33	15.5	×	7.7	×	5.3	925	包丁形	安山岩	○	上位	3.8					○右					<○右			抉れ上位、磨石の転用
D	140号住居	34	17.7	×	8.7	×	4.7	1,165	楕円形	緑泥片岩	○	中下位	4.4-5.3													
D	142号住居	18	13.8	×	6.6	×	3.6	608	片瓢箪形	安山岩	○	中下位	3.8			○裏		○左					<○左			抉れ中位、磨石転用
D	142号住居	19	12.1	×	8.3	×	5.0	747	瓢箪形	玢岩	○	中位	1.2-2.0					○					<○			抉れ中位
D	142号住居	20	14.7	×	6.9	×	3.4	540	楕円形	輝緑岩	○	中位	4.2													右側平坦面・表裏凹面利用
D	142号住居	21	15.3	×	6.9	×	3.6	534	彦口形	安山岩	○	中・下	1.1・2.2													左側中位の折れ利用
D	142号住居	22	12.9	×	8.8	×	5.5	835	形瓢箪形	安山岩	○	中位	3.0			○表		○					<○			磨石からの転用
D	142号住居	23	(16.0)	×	(3.2)	×	(3.2)	(451)	長方形	絹雲母石墨片岩		中位	3.7													下端欠損、左・裏側剥離
D	142号住居	24	16.5	×	7.2	×	5.5	1,038	楕円形	安山岩	○	中・下	1.6・1.4			○裏										磨石からの転用
D	142号住居	25	13.0	×	6.7	×	4.1	596	楕円形	安山岩	○	中位	2.7			○裏								○上		磨石からの転用
D	142号住居	26	14.0	×	6.1	×	5.0	706	隅丸長方形	安山岩	○	下位	2.5			○表			○							磨石からの転用
D	145号住居	6	14.6	×	4.1	×	4.8	404	棒形	角礫凝灰岩	○	中位	3.0					○					<○			横断面三角、縁辺頂に湾曲
D	145号住居	7	16.5	×	6.1	×	3.6	573	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.9													
D	145号住居	8	(9.2)	×	7.7	×	4.3	(474)	長方形か	安山岩	○	中下位	2.6			○			○片							上部欠損、下方摩耗半周
D	145号住居	9	16.0	×	6.1	×	3.0	497	彦口形	絹雲母石墨片岩	○	下位	2.0													
D	145号住居	10	15.5	×	6.7	×	3.5	627	隅丸台形	輝緑岩	○	中位	3.7													
D	145号住居	11	15.7	×	5.5	×	4.7	718	包丁形	輝緑岩	○	中位	4.8			○裏										裏面は剥離面
D	145号住居	12	18.3	×	5.7	×	3.1	515	包丁形	絹雲母石墨緑泥片岩	○	中位	3.4					○					<○			大型円礫使用
D	145号住居	13	21.1	×	7.7	×	2.7	658	包丁形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.2					○					<○			抉れ中位
D	145号住居	14	19.8	×	5.3	×	4.0	617	隅丸長方形	砂岩	○					○裏		○左						<○左		
E	123号住居	5	16.8	×	6.4	×	4.1	634	棒形	安山岩	○	中位	2.7			○										磨石からの転用
E	123号住居	6	15.8	×	8.7	×	5.2	1,122	長方形	安山岩	○	中位	4.2					○右					<○右			抉れ中位
E	123号住居	7	13.5	×	8.6	×	5.7	1,136	包丁形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	2.5					○右	<○右							
E	123号住居	8	14.0	×	7.8	×	4.6	730	菱形	絹雲母石墨片岩	○	中下位	3.8													

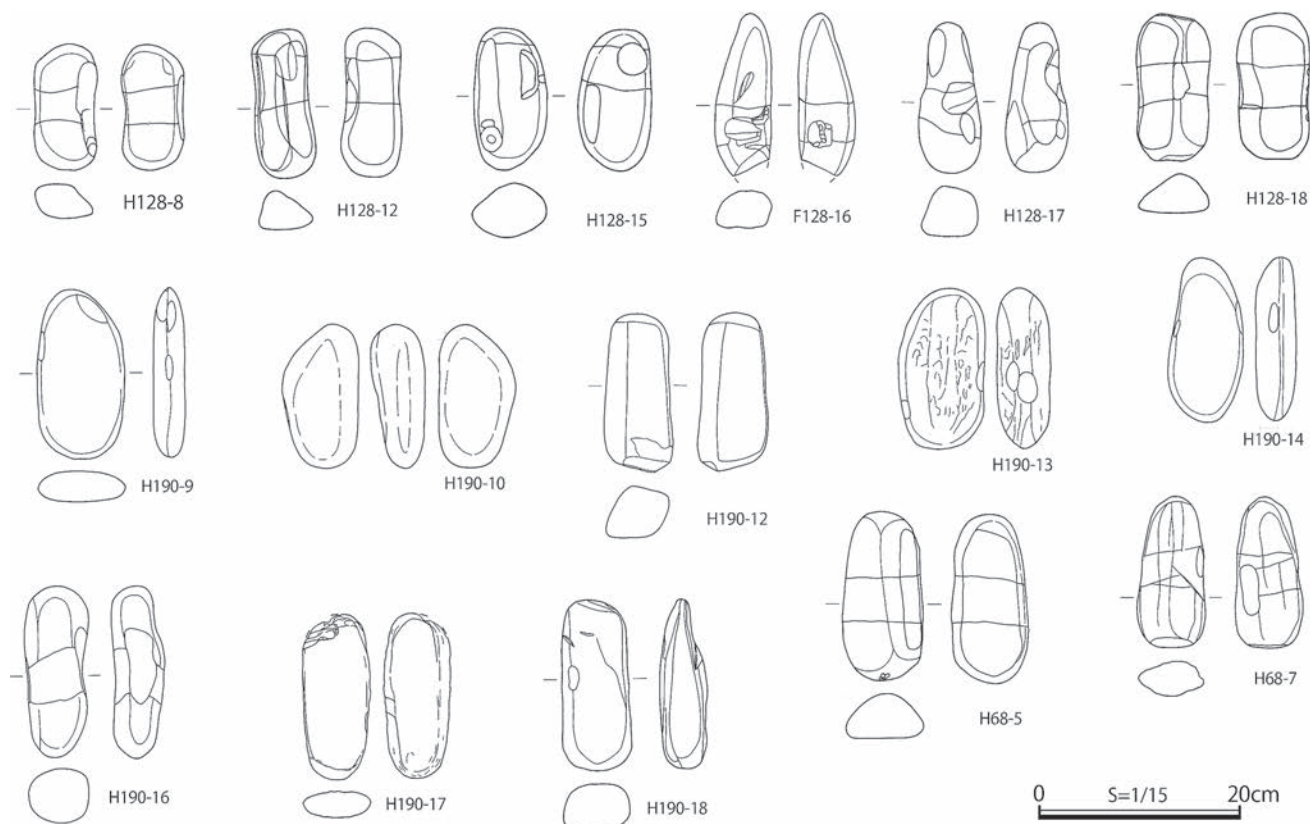
区	遺構	No.	規 模 (cm)			重量 (g)	平面形	石材種類	摩耗痕一周			表裏面			側縁					端 部			備考			
			長さ	×	幅	×	厚み		摩耗	位置	幅・数	摩耗	研磨	敲打	抉れ	摩耗	研磨	削り	敲打	剥離	自然	摩耗	研磨	敲打		
E 125号住居	18	17.5	×	8.3	×	3.0	783	長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.9				○					<○					
E 128号住居	7	13.3	×	5.8	×	4.6	471	隅丸長方形	砂岩	○	中位	2.6														
E 128号住居	8	12.3	×	6.3	×	3.3	413	瓢箪形	安山岩	○	中位	2.7				○右		<○左				<○右				
E 128号住居	9	14.2	×	7.3	×	4.7	699	片瓢箪形	安山岩	○	中位	2.5	○裏			○右									磨石からの転用	
E 128号住居	10	14.1	×	6.3	×	6.3	699	隅丸台形	安山岩	○	中上位	2.7	○表												横断面三角、磨石の転用	
E 128号住居	11	17.7	×	8.7	×	3.6	800	隅丸台形	安山岩	○	中上下	1.9・3.5									<○左					
E 128号住居	12	14.6	×	6.1	×	3.8	490	瓢箪形	安山岩	○	上位	3.1	○裏								○				磨石からの転用	
E 128号住居	13	18.1	×	8.4	×	3.4	799	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	上位	3.6													上位幅狭	
E 128号住居	14	(7.0)	×	(5.4)	×	(3.6)	(178)	隅丸長方形か	安山岩	○	—	2.8以上													横断面三角、磨石の転用	
E 128号住居	15	14.1	×	7.4	×	5.2	739	楕円形	安山岩	○	上位	4.0		○											磨石からの転用	
E 128号住居	16	(15.8)	×	5.8	×	3.8	(351)	滴形	砂岩	○	下位	3.3	○裏												磨石・凹石転用、表剥痕5	
E 128号住居	17	14.9	×	6.4	×	5.2	642	瓢箪形	安山岩	○	中位	3.3	○裏				○								磨石からの転用	
E 128号住居	18	14.4	×	7.2	×	4.2	712	隅丸長方形	安山岩	○	中位	3.4		○											磨石からの転用	
E 128号住居	19	13.8	×	7.4	×	4.4	793	隅丸台形	安山岩	○	中上位	2.5	○表												磨石からの転用	
E 128号住居	20	15.4	×	6.5	×	3.6	562	刀子形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	4.7				○					<○					
E 128号住居	21	13.7	×	6.2	×	4.9	682	楕円形	安山岩	○	中位	3.0	○表												磨石からの転用	
E 128号住居	22	14.6	×	6.8	×	4.8	770	鑿形	溶結凝灰岩	○	下位	2.2				○右					<○右				段を抉れに利用	
F 190号住居	9	16.8	×	8.6	×	3.1	790	米粒形	輝緑岩							○右	<右○				○左					右側抉れ上位、左摩耗中位
F 190号住居	10	14.2	×	7.5	×	5.0	750	包丁形	安山岩				○				○									
F 190号住居	11	15.0	×	7.9	×	3.5	700	隅丸台形	安山岩				○				○	<○左			<○右					
F 190号住居	12	15.6	×	7.4	×	4.8	1,020	鑿形	輝緑岩								○								摩耗は表裏寄り4か所	
F 190号住居	13	15.9	×	8.5	×	5.3	1,075	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩							○									抉れ右側1・左側2	
F 190号住居	14	16.2	×	7.5	×	3.8	710	滴形	安山岩																	
F 190号住居	15	15.5	×	7.9	×	4.4	755	楕円形か	安山岩							○	<○									
F 190号住居	16	17.0	×	6.4	×	5.1	860	瓢箪形	安山岩	○	中位	2.6-3.5		○		○右	○左									
F 190号住居	17	(16.2)	×	6.7	×	2.5	(485)	隅丸長方形	点紋絹雲母石墨片岩							○	○								抉れ左中位、右下位	
F 190号住居	18	16.8	×	6.9	×	4.3	1,025	隅丸長方形	輝緑岩				○				○左								裏面1/3欠落の右使用	
F 190号住居	19	13.3	×	7.3	×	4.7	675	楕円形	硬質砂岩							○	<○左								抉れ右中位明瞭、左上位	
F 190号住居	20	17.2	×	7.3	×	2.3	450	楕円形	絹雲母石墨片岩							○	<○									
F 190号住居	21	14.3	×	7.2	×	4.1	645	盾形	安山岩				○			○左	○					○			左縁下位弱く窪む	
F 190号住居	22	16.0	×	8.0	×	3.6	780	隅丸長方形	安山岩							○			<○						抉れ位置対角線上	
F 190号住居	23	16.9	×	6.9	×	4.1	745	楕円形	安山岩	△	上位	3.5		○裏			○左						○上	磨石からの転用		
F 190号住居	24	13.5	×	7.3	×	4.6	825	長方形	安山岩							○	○								抉れ下端近く	
F 190号住居	25	14.7	×	6.7	×	3.4	440	片楕円形	角閃岩							○右	○左				<○右				摩耗部の中凹部	
F 190号住居	26	14.7	×	8.0	×	3.7	655	烏帽子形	安山岩				○			○左	○右									
F 190号住居	27	14.3	×	8.1	×	4.3	665	半切楕円形	点紋絹雲母石墨片岩				○表				○右								横断面二等辺三角形	
F 190号住居	28	15.6	×	5.6	×	3.5	540	剃刀形	点紋絹雲母石墨片岩											○					剥離痕表面両側と裏面右側	
F 190号住居	29	13.3	×	7.9	×	4.1	620	包丁形	安山岩				○裏				○								裏面上位両側と側縁中位	
F 190号住居	30	14.2	×	(7.3)	×	3.4	(565)	長方形	絹雲母緑泥片岩				○				○右								表裏摩耗痕は一部	
F 190号住居	31	15.4	×	7.6	×	2.5	470	楕円形	点紋絹雲母石墨片岩							○右	<○右								抉れ明瞭	
F 190号住居	32	14.4	×	6.3	×	4.9	600	簍形	安山岩	○	中位	3.2														
F 190号住居	33	15.3	×	7.8	×	4.1	745	隅丸長方形	点紋絹雲母石墨片岩							○	○			<○					抉れ上位	
F 190号住居	34	16.2	×	7.5	×	4.8	705	端形	流紋岩					○		○	<○	○左								
K 49号住居	2	14.8	×	7.9	×	4.0	836	楕円形	輝岩	○	中位	2.4														
K 49号住居	3	13.7	×	7.9	×	3.8	635	楕円形	安山岩	○	中位	3.3							<○						抉れ中位	
K 49号住居	4	12.2	×	5.4	×	5.4	575	刃形	安山岩	○	中位	3.8										○下			磨石からの転用	
K 49号住居	5	12.5	×	6.6	×	3.9	512	楕円形	石墨絹雲母片岩	○	中位	4.2														
K 49号住居	6	14.2	×	7.3	×	4.5	691	楕円形	石英閃緑岩	○	中位	2.5	○表				<○右		<○左						磨石からの転用	
K 49号住居	7	15.0	×	8.2	×	4.5	872	楕円形	安山岩							○	<○								右縁中位に剥離による段	
K 49号住居	8	11.8	×	8.2	×	4.0	621	隅丸長方形	点紋絹雲母石墨片岩	○	中位	2.0					○右								研磨面中位	
K 49号住居	9	13.4	×	8.3	×	4.0	612	楔形	安山岩	○	中位	2.9									○左				左縁中位に凹部	
K 49号住居	10	13.6	×	7.2	×	3.1	498	斧形	安山岩	○	中位	2.8					○								側縁の研磨面中位	
K 49号住居	11	14.9	×	7.4	×	2.8	500	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.2														
K 49号住居	12	14.3	×	7.3	×	2.9	458	半楕円形	点紋絹雲母石墨片岩	○	上位	2.2				○右				<○右					右縁敲打部に自然の湾曲	
K 49号住居	13	15.6	×	7.7	×	4.5	850	楕円形	安山岩	○	上位	3.1													表面左、裏面右に窪み	
K 49号住居	14	16.2	×	8.2	×	4.1	820	撥形	流紋岩	○	中位	1.9				○左									抉れ中位	
K 49号住居	15	13.9	×	6.5	×	4.5	502	棒形	安山岩	○	中位	3.1				○左				<○左					横断面三角形	
K 49号住居	16	14.2	×	7.5	×	4.0	639	撥形	安山岩	○	中位	3.8				○右		○右								
K 68号住居	2	14.1	×	5.8	×	4.1	440	楕円形	安山岩	○	中位	4.5														
K 68号住居	3	12.7	×	5.9	×	3.6	457	長方形	絹雲母石墨片岩	○	中位	4.8													表面左下欠損	
K 68号住居	4	(12.7)	×	6.3	×	5.1	(751)	楔形か	角閃岩	○	中下位	4.3			○裏										裏面下敲打は抉れ、下部欠	
K 68号住居	5	16.7	×	8.0	×	4.2	873	楕円形	安山岩	○	中位	5.0	○裏				○右									
K 68号住居	6	14.9	×	8.4	×	4.7	826	撥形	安山岩	○	下位	3.5				○					<○				抉れ中位	
K 68号住居	7	14.7	×	6.7	×	3.6	474	撥形	絹雲母石墨片岩	○	中位	2.7-3.1				○				<○						
K 68号住居	8	17.1	×	6.9	×	5.1	1,032	隅丸長方形	流紋岩	○	中位	3.7				○左				<○左						
K 68号住居	9	15.0	×	6.0	×	6.2	922	瓜形	ひん岩	○	中位	3.0													左側に剥離面	
K 68号住居	10	13.1	×	4.6	×	4.9	461	楔形	輝緑岩							○左					<○左				抉れ裏面側のみ	
K 69号住居	3	14.9	×	7.2	×	4.2	507	楕円形	砂岩	○	下位	4.1				○右					○右				抉れ下より	
K 69号住居	4	20.8	×	8.9	×	5.5	1,085	片楕円形	絹雲母石墨片岩	○	上半	5.9													大型の角礫使用	
K 69号住居	5	16.4	×	7.1	×	4.4	474	種形	絹雲母石墨片岩	○	中位	3.9														
K 69号住居	7	15.2	×	6.6	×	5.0	687	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	3.0														
K 69号住居	8	18.1	×	7.1	×	4.4	749	楕円形	絹雲母石墨片岩	○	中上位	3.5														
K 69号住居	9	13.2	×	(6.4)	×	3.0	(329)	錐形	石墨絹雲母片岩	○	上位															



第5図 多比良追部野遺跡出土こも編み石(1)



第6図 多比良追部野遺跡出土こも編み石(2)



第7図 多比良追部野遺跡出土こも編み石(3)

石の多い遺跡もあるが、多比良追部野遺跡出土資料では、磨石が主体(転用品の85.6%)であり、敲石は9点(転用品の9.3%)と少ない。資料は提示しないが、筆者が近年目にしたこも編み石も敲石の転用、或いは敲石様の使い方をしている例を散見している。しかし多比良追部野遺跡出土例に敲石が少ないのは、本遺跡例の使用石材に片岩が多く、従位に剥離する性質を持つため、敲石としての使用が少ないものと思料される。

④ こも編み石の要件となる加工痕1—摩耗周—

こも編み石に見られる使用・加工痕跡のうち「横位を一周する摩耗痕」と側縁に確認された「抉れ」は、こも編み石としての使用を確認するものである。尚、本稿では横位を一周する摩耗痕を、以下「摩耗周」と仮称することとする。

摩耗周の見られたこも編み石は373点で、これは今回分析対象とした469点のこも編み石の79.5%に当たるものである。このうち殆どは1条の摩耗周であるが、16例(4.3%)に2条の摩耗周が確認されている。2条の摩耗周の確認された16例の摩耗周の位置は、両端寄りにあるものが6例、中位と端部よりにあるもの6例、中位の両端側にあるもの3例、中位の一端に寄ったところと端部寄りにあるものが1例であった。また、摩耗周1条のこも編み石368点のうち、摩耗周が中位にあるものが

229点、中位のやや片端部寄りにあるものが78点、端部寄りにあるもの46点、上半部にあるもの4点であった。また斜方向に摩耗種のあるもの1例と、切断して1条か2条か明らかでないもの1例があった。中位に摩耗周の見られるものが64.1%と、多い傾向が見られた。また、摩耗周の幅は、切断して測定できなかったものを除き1.0～7.0cmを測ったが、平均3.5cmを測り、標準偏差は1.1であった。

住居別の摩耗周を有するこも編み石の割合は、4軒が25%以下、4軒が40～60%、12軒が75～99%であったが、残り14軒は100%を記録した。また、摩耗周を伴うこも編み石の割合が75～99%であるもののうち、4軒が90%以上、残り8軒のうち2軒が89.9%と高い比率であった。全てのこも編み石が摩耗周を伴う住居は全体の41.1%であるが、摩耗周を伴うこも編み石が89.9%以上を占める住居は58.8%、75%以上では76.5%を占めている。

一方、摩耗周を伴うこも編み石の比率が25%以下の住居は、F区190号住居(11.5%)、B区14号住居(12.5%)、B区10号住居(16.7%)、B区19号住居(23.5%)の4件であったが、これらは新しい河原石で作業を始めてからあまり時間が経過していないことを示唆しているものと思料される。換言すれば摩耗周を伴うこも編み石が100%であるB区18号住居、C区111号住

居等14軒の竪穴住居では、長期間使用したこも編み石で編物を作製する作業が行われたことが示唆するのであり、75～100%以上が確認された26軒の竪穴住居では長期に使用されたこも編み石を使用したことが窺われるのである。

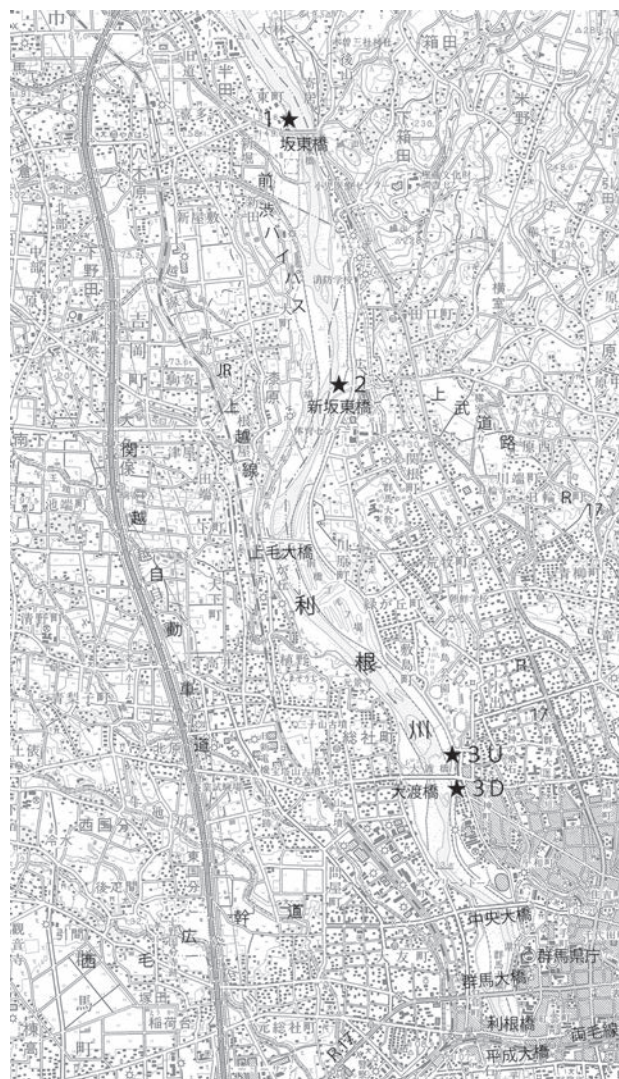
⑤ こも編み石の要件となる加工痕2一挟れ一

摩耗周とともに側縁に確認される「挟れ」はこも編み石としての使用を確認する要件となるものである。

こも編み石は縦糸となる縄或いは紐を巻いて使用するが、その手掛かりとして側縁に「挟れ」を有する事例が、検討対象の469点のうち229点、48.8%に見受けられた。このうち117点(48.3%)に明らかな加工痕が見られ、18点(7.4%)が明らかな自然面であった。加工による挟れを有するこも編み石は、摩耗によるものが42点で、左右両側に施されているもの28点、片側のみに施されているもの14点であり、研磨によるもの13点中、左右両側に施されているもの8点、片側のみに施されているもの5点、削りによるもの3点は全て両側に施されている。また敲打によるもの36点では、左右両側に施されているもの22点、片側のみに施されているもの14点、剥離によるもの23点で、右両側に施されているもの7点、片側のみに施されているもの16点であった。尚剥離によるものは、当遺跡のこも編み石の石材が片岩が多いことによる特性であろうと思料される。この加工により形成された挟れを有するこも編み石は、摩耗によるものが35.9%、敲打によるものが30.8%と多い。

一方自然面を挟れとして使用したこも編み石18点が確認されたが、左右両側に挟れを持つもの5点、片側のみのもの13点であった。先に、こも編み石の平面形態は主に楕円形や隅丸長方形を呈すると述べたが、表3には記した形態の中で器物からその形態名を取ったものは概ね幅広のものであり、瓢箪形と記した幅広の瓢箪形を呈したものは中位の絞り部分を利用し、或いは鳶口形と記した端部の一縁側が突出した幅広の鳶口形の石材も縄或いは紐を掛ける手掛かりとなったものと思料される。

多比良追部野遺跡出土のこも編み石はのうち、8個以上が出土した竪穴住居出土の469点について検討した。本遺跡では磨石を主体としたが、先学が指摘したようにこも編み石には石器、石製品からの転用品があり、摩耗痕、研磨痕、敲打痕等の人為的所作の痕跡が確認された。しかし、こも編み石がこも編み石である根拠となる加工は、本稿では摩耗周と仮称した、礫の中位に一周する摩耗痕跡と側縁に見られる挟れである。挟れには摩耗、敲打等により加工したものと、自然面を利用したものがあつた。



第8図 河原石調査地点位置図(S=1/10万)

5 利根川の川原石

① 利根川と川原石の調査方法

それでは自然石ではこのような加工痕は見られるのであろうか。そこで、これを確認するため、河原石を観察、記録して確認することとした。

調査は利根川河原の3地点4か所で令和2年10月から11月にかけて実施した。一級河川である利根川は、群馬県利根郡みなかみ町大水上山を源とし、関東平野を横断して太平洋に注ぐ大規模河川である。調査域は利根川の上流部に当たり、山間地から関東平野に現れた付近に所在する。

調査地点は渋川市南部の国道291号(旧国道17号)の坂東橋上流側袂の右岸(第1地点)、前橋市と北群馬郡吉岡町市町境の国道17号前橋渋川バイパスの新坂東橋上流側左岸(第2地点)、前橋市岩上町・総社町間の県道6号線の大渡橋左岸の上流側(第3U地点)及び下流側(第3D)の4地点である。第1地点では10点、第2地点で



写真1 第1地点調査の川原石



写真2 第2地点調査の川原石(1)



写真3 第2地点調査の川原石(2)



写真4 第2地点調査の川原石(3)



写真5 第3 U地点調査の川原石(1)



写真6 第3 U地点調査の川原石(2)



写真7 第3 U地点調査の川原石(3)



写真8 第3 D地点調査の川原石(1)



写真9 第3 D地点調査の川原石(2)

は29点、第3 U地点では28点、第3 D地点では19点の合計86点の「こも編み石に見える礫」を選定し、長さ、幅、厚みを測定し、重量を測った。また石材を同定し、写真撮影を行った。尚、石材同定は筆者が行ったため、或いは誤りがある可能性のあることを付記しておく。

① 利根川の川原石の概要

調査した川原石は上述のように86点であったが、その長さは9.6～16.5cm、平均12.19cmを測り、標準偏差は1.43であった。また重量は164～860g、平均418.87gを測り、標準偏差は145.43であった。

また、河原石の表面を洗浄し、短時間ではあったが表面観察を行った。その結果、No.29は任意に据えた表面左寄りに3.7×3.8cmの摩耗痕を確認し、No.78の一端に敲打痕を確認したが、他の河原石にはこうした加工痕様の痕跡は確認されなかった。また幅は測定しなかったが、中位を横断するように薄層理(幅3cm以上)程度の層理が確認されたものが29点あった。これは調査対象の33.7%に当たるものである。写真10に多比良追部野

遺跡のB区19号住居-21(左側)と川原石(No.19)を並べて示したが、観察に慣れていないと、この薄層理と摩耗周とは見間違える可能性を有するもので、疑似摩耗周とも呼べるものである。疑似摩耗周に比べ摩耗周は円滑な面を呈している。

川原石には抉れとして使用できる自然面を有するものが16点あった。これは調査対象の18.6%を占めるもので、換言すれば、こも編み石としての使用を前提として川原石を採集するに当たり、こうした形態のものを敢えて採集した可能性が考えられるものである。

以上のように、自然の川原石には摩耗周と見間違える



川原石(左: 19住-21、右: No.19)
(▼ 摩耗周 ▲ 層理(疑似摩耗周))

表 4 利根川の河原石

No.	調査地点	平面形	疑似使用痕跡		規格				石材	備考
			疑似摩耗周	自然面抉れ	長さ	幅	厚み	重量		
1	1	隅丸長方形			13.3	7.1	4.8	645	砂岩	左右表裏面に円滑な層理の剥離面が見られる
2	1	隅丸長方形			10.4	5.3	3.4	253	礫岩	左右両側に層理の剥離面が見られる
3	1	楕円形			10.4	6.3	3.8	390	砂岩	円弧に割れた円礫
4	1	勾玉形	○		13.5	5.6	3.8	544	泥岩	内湾する側面に節理の剥離面見られる
5	1	楕円形			12.7	6.2	3.6	376	閃緑色岩	表裏面やや円滑
6	1	足裏形		○	10.7	6.1	4.3	429	砂岩	表面・両側面節理により内湾。裏面平坦
7	1	楕円形			12.6	6.2	3.6	652	砂岩	円礫
8	1	勾玉形		○	15.1	6.3	3.8	498	流紋岩	表裏面と内湾側面に節理の剥離面見られる
9	1	包丁形			14.0	5.7	3.5	398	緑色岩	表裏・左右側面に節理の剥離面見える角礫
10	1	楕円形	○		10.7	6.0	3.9	412	緑色岩	中位に幅3.9cmの薄層理見られる
11	2	盾形			10.8	6.3	4.5	455	安山岩	横断面三角形。3面に節理の剥離面見られる
12	2	楕円形	○		12.3	7.2	3.5	321	安山岩	中位に幅3.1cmの薄層理見られる円礫
13	2	楕円形			10.8	6.9	2.8	347	砂岩	表裏に節理の剥離面見られる
14	2	米粒形	○		12.2	6.0	3.1	378	砂岩	中位に幅4.4cmの薄層理見られる円礫
15	2	勾玉	○	○	10.9	6.1	3.7	482	砂岩	横断面長方形。中位に幅5.4cmの薄層理見る
16	2	円弧形			13.6	6.1	4.0	673	泥岩	蛤刃形。方側面に節理剥離面見られる
17	2	鑿形			14.8	5.7	4.3	436	緑色岩	角柱状。中位に幅5.2cmの薄層理見られる
18	2	瓢箪形	○	○片	16.1	7.2	4.8	809	安山岩	中位に幅3.6cmの薄層理見られる円礫
19	2	半瓢箪形	○		14.4	5.7	5.4	653	閃緑色岩	中位に幅4.1cmの薄層理見られる円礫
20	2	米粒形			13.5	5.5	4.8	459	流紋岩	各柱状で両側面に節理の剥離面見られる
21	2	隅丸三角形	○		12.3	6.9	4.2	414	閃緑色岩	断面三角。三面に剥離面。表裏に幅3.8cmの層理
22	2	楕円形	○		12.8	6.4	5.0	560	砂岩	中上位に幅5.2cmの薄層理見られる
23	2	米粒形			12.5	6.5	4.2	531	凝灰岩	裏面に凹面なす剥離面
24	2	米粒形			12.1	6.5	3.7	435	閃緑色岩	円礫
25	2	菱形			12.7	5.0	3.7	342	緑色岩	横断面直方体。上面上位欠失面
26	2	盾形		○	11.9	5.2	3.9	316	緑色岩	横断面直方体。上面上位剥離面
27	2	包丁形			11.3	6.3	3.6	351	輝岩	横断面三角。側面に剥離面
28	2	鳶口形	○		11.1	5.0	5.0	396	閃緑色岩	断面台形。両側剥離面。下位に幅3.3cmの薄層理
29	2	楕円形			11.5	6.5	4.1	467	安山岩	表面左寄りに3.7×3.8cmの摩耗痕
30	2	米粒形			13.0	6.0	4.9	531	安山岩	挾側面に凹面あり
31	2	楕円形			12.4	5.8	4.1	357	礫岩	裏面は剥離による凹面
32	2	亜鳶口形			11.9	4.9	3.9	338	流紋岩	横断面三角形。裏面は層理による剥離面
33	2	包丁形			10.8	6.0	3.5	304	チャート	横断面菱形
34	2	楕円形			12.5	6.1	3.5	421	閃緑色岩	円礫。裏面平坦な剥離面
35	2	楕円形	○		10.3	4.8	2.9	243	閃緑色岩	円礫。裏面やや平坦。中位に幅3.5mmの薄層理
36	2	楕円形	○		11.4	5.5	2.4	355	安山岩	右側面剥離痕。中下位位置に幅3.1cmの薄層理
37	2	楕円形			13.0	6.5	4.7	509	安山岩	下半表面荒れる。裏面層理面
38	2	横楕形	○		12.9	5.2	4.3	429	デイスাইト	中位に幅4.1cmの薄層理
39	2	楕円形		○	11.7	5.1	4.2	393	砂岩	円礫。内湾する左側に層理面
40	3U	楕円形	○	○	10.3	5.3	3.9	337	流紋岩	円礫。右側に層理面。左側面に層割れの小凹面
41	3U	隅丸長方形	○		14.2	7.1	4.6	717	閃緑色岩	裏面平坦。中位に幅4.7cmの薄層理
42	3U	〔?〕形	○		11.4	4.9	2.5	225	安山岩	片側縁に長4.9cmの抉れ。中位に幅3.7cm薄層理
43	3U	楔形			14.1	5.1	5.0	582	輝岩	片側面と裏面に二か所の剥離面
44	3U	鑿形	○	○	13.2	6.6	4.3	409	砂岩	断面三角。上端に剥離面。中位に幅3.6cmの層理。片縁中位に小抉
45	3U	楕円形		○	11.2	6.8	3.1	325	安山岩	円礫。片縁に弱い内湾
46	3U	勾玉形		○	13.4	6.8	3.4	475	閃緑色岩	裏面平坦。片面縁際に3.4×6.6cmの剥離面
47	3U	彫刻刀形			11.2	4.5	3.5	324	砂岩	角柱形。上端に層理面。裏面下位～下端に剥離
48	3U	磐形		○	12.0	7.0	4.3	379	安山岩	片側縁に剥離痕跡
49	3U	鐘形			14.4	4.7	3.3	373	頁岩	表面に剥離面。縦位の層理
50	3U	火打金形			13.0	6.4	3.5	443	蛇紋岩	側面に従位の微小に薄い層理・葉理多数
51	3U	勾玉形			13.3	7.1	3.1	484	凝灰岩	右側縁に内湾する層理面
52	3U	楕円形	○		14.0	7.1	4.3	661	礫岩	中位に幅3.3cmの薄層理、表面右端に剥離面
53	3U	短冊形	○		12.0	4.1	3.1	264	頁岩	横断面菱形。中位に幅3.8cmの薄層理
54	3U	楕円形			11.8	7.5	4.0	518	安山岩	円礫。裏面右側に層理面
55	3U	勾玉形			11.3	5.5	4.5	415	砂岩	左側に湾曲する層理面
56	3U	円弧形	○		13.8	6.3	4.6	606	輝岩	左側割痕。中位やや上に幅2.7cmの薄層理
57	3U	楕円形			12.8	6.5	3.7	486	安山岩	円礫。裏面やや平坦
58	3U	茄子形	○		13.5	5.2	4.5	461	砂岩	裏面割剥。中位に幅4.6cmの薄層理
59	3U	鳶口形		○	10.8	5.5	3.4	275	頁岩	中位に幅4.0cmの薄層理
60	3U	鳶口形			10.4	3.6	2.7	164	凝灰岩	横断面方形。両側割れ面
61	3U	隅丸長方形			12.0	6.0	3.3	352	砂岩	横断面形三角形。裏割れ面。
62	3U	半ハート形			10.3	5.9	3.0	240	泥岩	左側層理面。表裏剥離面
63	3U	楕円			10.4	5.6	2.4	199	安山岩	円礫。上中位と肩の間に層理
64	3U	楕円形	○		14.4	6.9	5.2	860	安山岩	中位に左縁に弱い凹面あって幅4.1cmの薄層理
65	3U	楔形		○	10.8	5.9	4.3	371	緑色岩	横断面三角形。頂部に層理面
66	3U	磐形			11.7	6.9	4.0	521	頁岩	右側に層理面。左側は剥離
67	3U	勾玉形			16.5	7.5	4.9	835	安山岩	中上位に幅3.9cmの薄層理。この位置左側で内湾
68	3D	隅丸長方形			12.6	5.6	3.5	382	デイスাইト	裏面層理面、左右両側円滑な層理を挟み内湾
69	3D	楕円形			9.6	5.4	3.3	277	安山岩	円礫。裏面沿いで層理分かれる
70	3D	棒形			12.7	3.6	3.4	243	石英斑岩	横断面方形。中下位緩斜方向に幅3.2cmの薄層理
71	3D	掌形	○		13.9	6.3	3.4	417	閃緑色岩	中位に下よりに幅3.8cmの薄層理
72	3D	棒形	○		11.7	4.3	3.9	311	安山岩	片側剥離。表裏平。中位に幅3.9cmの薄層理
73	3D	棒形			10.6	3.6	3.2	188	花崗岩	円礫。裏面平。片側剥離
74	3D	楕円形	○	○	12.6	6.6	3.2	373	閃緑色岩	右上欠。左中位クラックによる小抉れ。緩斜方向に幅2.8cmの薄層理
75	3D	火打金形	○		11.7	6.2	3.3	378	安山岩	円礫。中位に幅3.0cmの薄層理
76	3D	隅丸長方形	○		12.9	5.7	4.1	541	閃緑岩	横断面菱形。中上位に幅3.1cmの薄層理
77	3D	火打金形			11.7	5.8	3.3	327	安山岩	円礫。片側縁に剥離面
78	3D	火打金形			12.9	7.0	3.7	520	閃緑岩	円礫。一端に一回の敲打痕
79	3D	鳶口形		○	11.0	6.2	2.4	263	砂岩	円礫。片側縁に層理による内湾する湾曲面
80	3D	楔形			10.9	4.9	2.9	222	砂岩	左側・裏面と上下両端粗い剥離。表面と右側平坦
81	3D	勾玉形		○	11.7	6.7	3.8	454	頁岩	横断面長方形。片側に剥離によるく字状の剥離
82	3D	楕円形			9.8	4.3	3.0	175	砂岩	円礫。横断面三角形
83	3D	円弧形	○		11.6	6.1	3.7	362	安山岩	一側縁剥離痕。中位に幅2.9cmの薄層理
84	3D	楕円形	○		11.1	5.2	4.0	295	安山岩	片側平坦。中位に幅3.3cmの薄層理有て一部窪む
85	3D	撥形			10.0	5.3	3.3	235	閃緑岩	層理の堺より下、左右両側面・下位内湾、面成す
86	3D	撥形			10.9	5.5	5.1	464	凝灰岩	斜め方向に砂に挟まれた幅2.7cmの薄層理

ような層理はまま見られるものの、自然礫には摩耗周や、摩耗や敲打による抉れ等は確認されないことを確認した。

6 まとめ

本稿の目的は「礫が1点でもこも編み石と認識できるか」を明らかにすることであり、換言すればこも編み石と自然礫との識別が可能か否かということであった。そのために多比良追部野遺跡出土の478点のこも編み石について再検討を行い、利根川の河原に見付けた「こも編み石」のような形態の川原石の観察を行い、両者の比較を行ってきたのである。

これまで冗長に述べてきたが、多比良追部野遺跡出土のこも編み石の観察を通して、こも編み石の多くが摩耗周を有していること、また半数に加工による抉れを有していることが確認できた。また、こも編み石には磨石等の転用品が含まれ、或いは研磨、敲打、剥離等の加工痕跡が見いだされることも確認し、先学の見解を補強することとなった。その他、出土した複数のこも編み石の中の摩耗周の有無の比率により、河原石を拾得した後のこも編み石としての使用期間の長短が推定されることも想定できた。

一方、自然の川原石に於いては、68点中2点の川原石に人為的とも見える敲打痕や一部の摩耗痕を確認したものの、総じて人為的加工痕や摩耗周、敲打等による抉れは確認できなかった。こうしたこも編み石と自然の川原石との表面観察の比較により、摩耗周の有無がこも編み石か否かの認定基準になるものと判断された。また人為的な抉れの加工痕もこも編み石認定の根拠になるものと思われた。そして、自然の川原石は、その側縁の形態が内湾する箇所が見られたり端部が突出したりすることで、こも編み石として使用しやすい形態を自ずから有しているものがあり、こうした石材がこも編み石利用のため収集されたものと思料されるのである。

以上の検討結果等から、摩耗周のある石材であれば、例え1点でもこも編み石と認定できるものと解釈した。また、人為的加工による抉れが確認された場合はこも編み石としての使用の可能性が指摘できるのであり、特にその加工が両側縁に形成されていれば、こも編み石と認定する判断基準になるものと思料

されるのである。勿論、今回調査対象とした多比良追部野遺跡出土こも編み石についても、全てに摩耗周が確認できないことは既述の通りであり、単体としては残念ながら摩耗周のない礫はこも編み石として認定できない。こうした礫は複数個のまとまりとしての出土がなければこも編み石と認定することはできないのである。

さて、本稿で取り上げたこも編み石を、当事業団でかつてまとめられたのは、同窓の先輩であり、職場の先輩でもあった黒沢はるみ氏で、昭和の時代のことであった。その後、氏の成果を評価する機会もないまま時間のみが過ぎてゆき、今日では、こも編み石は竪穴住居から複数個がまとまりとして出土した場合にのみ、発掘調査報告書へ取り上げられることが一般的になってきている。そうした中、「1点ではこも編み石と認められない」という指摘をときおり耳にしてきた。しかし多比良追部野遺跡の整理作業を経験し、その後多数のこも編み石を実見してきた経験から、竪穴住居からまとめて出土した状態になくても、詳細な観察でこも編み石を識別できるのではないかという考えが、本稿を起こしたきっかけであり、目的とするところであった。しかし浅学の悲しさで、冗長なだけで、十分な検討を成し得なかったことは慚愧に堪えないのである。しかし、繰り返しになるが、上述のように摩耗周や人為的加工による挟れが確認できるのであれば、1点でもこも編み石として認識できるのであり、たかがこも編み石と雖も詳細な観察によりたった1点でも自然石とこも編み石を識別できることを示せたのではないかと思うのである。

最後になるが、本稿執筆の遠因となったのは筆者にこも編み石の観察の視点が与えられたことであり、その視点をご教示賜った大木紳一郎氏に感謝申し上げたい。また、こも編み石への関心を失わせないアンカーとしてあったのは国分寺中間地域の発掘調査報告書に掲載されたこも編み石の論考であり、これを執筆された黒沢はるみ氏と、その業績の掲載をご教示戴いた桜岡正信氏にも謝意を伝えたいと思う。そして、実は今年も執筆が進まず辞退を申し出たものの、却って叱咤激励戴き、ついには提出まで導いて下さった当事業団年報紀要委員会の担当である谷藤保彦氏にも謝意を伝え、稿を閉じたいと思う。

【註】

- (1)大場利夫・石川徹(1956)は原典に当たりなかったが、新型コロナウイルスの発生により、所蔵図書館への往来が困難なため、渡辺誠(1981)からの孫引きとして提示した。
- (2)黒澤は『石墨遺跡』(1985)の共著者である石北直樹の説として記しているが、水田実の見解である。
- (3)石材鑑定は陣内主一先生が行っている。
- (4)多比良追部野遺跡出土こも編み石の重量標記は10g単位のものとして1g単位のものがあるが、整理途中で重量計の更新があったためであるが、該当資料が多量であるため、測定の上直しは行わなかった。

【引用文献】

- 大場利夫、石川徹『手稲遺跡』(1956)、手稲町
- 児玉作左衛門、大場利夫『天塩国豊富遺跡の発掘調査について』(1959)、「北方文化研究報告」第14輯、pp.133-180、北海道大学北方文化研究室
- 大川 清「むすび」(1968)『長野県伊那市福島遺跡(資料編)』、pp.84-86、国土館大学文学部考古学研究室
- 尾崎喜左雄『入野遺跡』(1962)、群馬県多野郡吉井町教育委員会
- 尾崎喜左雄「群馬県入野遺跡」(1970)『新版考古学講座 第6巻 有史文化<上>』、pp.161-168、雄山閣、1973年刊行の再販本を使用した。
- 尾崎喜左雄「群馬県入野遺跡」(1962)、多野郡吉井町教育委員会
- 柿沼幹夫「2 下田遺跡43号住居跡出土の川原石について」(1979)『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告―Ⅲ― 下田・諏訪』、pp.172-176、埼玉県教育委員会、V結語
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『多比良追部野遺跡』(1997)
- 黒沢はるみ「第3項 住居出土の礫について」(1988)『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)』、pp.411-415、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、「第5章まとめ 第2節遺物」
- 柴田 徹『河原の石のC D 岩石鑑定図鑑』(2005)、(有)考古石材研究所
- 千葉とき子、斎藤誠二『かわらの小石の図鑑』(1996)、東海大学出版
- 比留間博「ii」五領期の石器」(1969)『船田』、pp.106-107、八王子市船田遺跡調査会、服部敬史他執筆
- 水田 稔「<敵石>」(1985)『石墨遺跡』、p.380、沼田市教育委員会、[VI 成果と問題点 2 弥生時代・古墳時代前期 (3) その他の道具]
- 吉井雅勇「荒川町道端遺跡出土の楕円礫について―古墳時代中後期の編物石鍾の出土例―」(2007)『新潟考古学談話会会報』第33号、pp.43-48、新潟考古学談話会
- 渡辺 誠「編み物用鍾具としての自然石の研究」(1981)『名古屋大学文学部研究論集LXXX』、pp.1-pp.46

【図版】

- 第1図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第47図に石守加筆転載
- 第2図 上：石守が作成 中・下：(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第1図・第2図を石守加筆転載
- 第3図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第63・140・165・168・170-171・212-213・349-351図に石守が加筆転載
- 第4図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第369・414-415・586-587図に石守が加筆転載
- 第5図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第32・40・47・49・53・66・70・109・123・142・157・160・167・169・173・214図から抽出、転載
- 第6図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第214・268・277・310・320・329・348・354・363・369・416図から抽出、転載
- 第7図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997) 第435・589・647図から抽出、転載
- 第8図 国土地理院「前橋」1/50,000地形図に石守加筆

【写真】

写真1～10 石守が撮影、修正